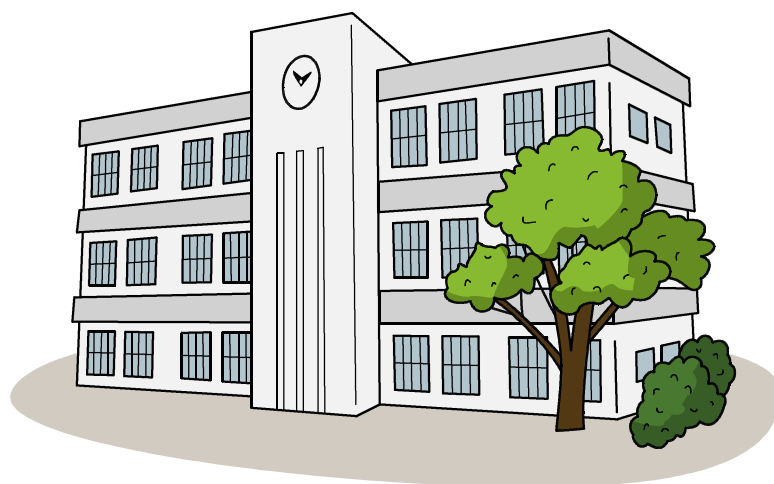


# 「沖縄県立特別支援学校高等部 分教室の調査研究モデル校事業」

## 報告書



平成25年3月

沖縄県教育委員会

## はじめに

沖縄県教育委員会は、県立特別支援学校編成整備計画（平成19年度～23年度）において、「小・中・高等学校への分校・分教室の設置検討」を定めました。

その主な内容は、関係市町村教育委員会や高等学校と連携を図りながら、小・中・高等学校と施設等を共有し、特別支援学校の幼児児童生徒と小・中・高等学校の児童生徒が、特別活動や学校行事等を通して、日常的に交流及び共同学習ができるようにすること。また、身近な地域への就学を可能にするため、小・中・高等学校の余裕教室等を活用した特別支援学校の分校・分教室の設置について検討するとされております。

これを受け、県教育委員会は、平成22年3月に「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業に係る実施要項」を定め、1. 共生化の拡大、2. 理解啓発の推進、3. 地域化の推進、4. センターの機能の充実、5. 中学校（知的障害特別支援学級）卒業生への対応についての研究を開始しました。

平成22年4月、沖縄高等特別支援学校南風原高等学校分教室、沖縄高等特別支援学校中部農林高等学校分教室、大平特別支援学校久米島高等学校分教室が設置され、平成24年度には1、2、3年生全ての学年が揃い、平成25年3月、3校の分教室から17名の卒業生を送り出しました。そして、「研究実施に係る生徒、保護者、教職員のアンケート調査」をもとに、この3年間の事業の成果や課題が報告書としてまとめられました。

平成24年10月5日設置された、「沖縄県立学校における特別支援学級、分校、分教室等に係る検討委員会」では、この3年間の事業の成果や課題について検証の結果、事業の目的が達成され、モデル事業の継続ではなく、分教室として、正式に位置付けられることになりました。

県教育委員会としましては、「沖縄県立学校における特別支援学級、分校、分教室等に係る検討委員会」の報告をもとに、今後も分教室母体特別支援学校、分教室設置高等学校と連携し、分教室設置の目的の周知とその充実を図って参ります。

平成25年3月

教育庁県立学校教育課

課長 仲間 靖

# 目 次

はじめに

1. 「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」の目的・・・1
2. 「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」の経緯・・・2
3. 各分教室の研究に係る取組概要
  - (1) 県立沖縄高等特別支援学校南風原高等学校分教室の取組・・・4
  - (2) 県立沖縄高等特別支援学校中部農林高等学校分教室の取組・・・5
  - (3) 県立大平特別支援学校久米島高等学校分教室の取組・・・5
4. 研究実施に係る生徒、保護者、教職員のアンケート調査
  - (1) 調査の目的・・・6
  - (2) 調査の方法・・・6
  - (3) 調査の結果と考察・・・7
    - ①分教室生徒
    - ②分教室保護者
    - ③分教室教職員
    - ④設置校高校生徒
    - ⑤設置校高校保護者
    - ⑥設置校高校教職員
  - (4) 調査の総合考察・・・42
5. 各分教室の進路状況・・・44
6. 「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」総合考察・・・45
7. 南風原高等学校分教室、中部農林高等学校分教室、久米島高等学校分教室の継続的設置について（沖縄県立学校における特別支援学級、分校、分教室に係る検討委員会 審議結果）・・・47

おわりに

## 1. 「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」の目的

### (1) 事業のねらい

県立特別支援学校編成整備計画（平成 19 年度～平成 23 年度）では、小・中・高等学校と施設等を共有し、特別支援学校の幼児児童生徒と小・中・高等学校の児童生徒が、特別活動や学校行事等を通して、日常的に交流及び共同学習ができるようにする。また、身近な地域への就学を可能にするため、小・中・高等学校の余裕教室等を活用した特別支援学校の分校・分教室の設置について、関係市町村教育委員会と連携しながら検討するとしている。

それを受けて、分教室設置における次の課題等を明らかにし、より効果的な分教室の在り方について調査研究することをねらいとしている。

#### ① 共生化の拡大

分教室に在籍する生徒と高等学校に在籍する生徒が共に学ぶ場所が共有されることで、同世代の生徒とのつながりをより強めることができるようになる。

#### ② 理解啓発の推進

地域の生徒という意識が深まることにより、地域での理解や支援が受けやすく、障害に対する理解が進むようになる。

#### ③ 地域化の推進

分教室が設置されることで、通学の利便性が高まったり居住地により近い場所で学べるようになる。

現在、特別支援学校は障害種毎に設置されている。知的障害特別支援学校は、全県を通学区域とする沖縄高等特別支援学校や、本島・離島の各地域を通学区域とする 7 校があり、いずれの学校も広範囲の通学区域を抱えている。

#### ④ センターの機能の充実

分教室を設置することにより、設置高等学校や周辺地域にとって特別支援教育に関する相談・支援が身近なものとなり、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たせ、拠点の充実が図られる。

#### ⑤ 中学校（知的障害特別支援学級）卒業生のニーズへの対応

中学校（知的障害特別支援学級）卒業生の進路先の拡大が図れるようになる。

### (2) 事業の実施期間

平成 22 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで。

## 2. 「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」の経緯

平成22年4月、分校・分教室等設置に向けた研究説明会から沖縄高等特別支援学校南風原高等学校分教室と中部農林高等学校分教室、大平特別支援学校久米島高等学校分教室設置後、平成25年3月までの事業の経緯について下表にまとめた。

### (1) 3年間の調査研究モデル校事業の経緯

時 期	経 過
平成 21/4/10	県立学校校長研修会（分校・分教室等設置に向けた研究を説明）
平成 21/5/29	沖縄県立学校における特別支援学級、分校・分教室等に係る検討委員会設置要綱（教育長決裁）
平成 21/6/10	第1回作業部会（年間計画、作業部会役割確認、他）
平成 21/6/11	第1回検討委員会（要綱の確認、概要説明、他）
平成 21/7/9～7/10	先進県視察（大阪府、長野県）
平成 21/8/10	第2回作業部会（視察報告、他）
平成 21/8/13	第2回検討委員会（第2回作業部会報告）
平成 21/9/2	第3回作業部会（在り方まとめ、他）
平成 21/9/9	第3回検討委員会（第3回作業部会報告）
平成 21/9/10	県立学校教育課（学校等訪問：久米島高校、久米島町教育委員会、仲里中、久米島中、久米島西中）
平成 21/9/14	県立学校教育課 学校訪問（中部農林高校、沖高特支）
平成 21/10/13	第4回検討委員会（今後の対応について）
平成 21/11/17	第4回作業部会（次年度の取り組み検討①）
平成 21/11/19	第5回検討委員会（第4回作業部会報告）
平成 22/1/4 平成 22.1月～3月	県立学校分教室担当教諭辞令交付 県立特別支援学校高等部分教室に係る準備室設置と人事配置（3名） 【業務内容】 ①分教室開室に係る本庁、設置校、母体校との連絡調整 ②入試業務、教育課程、時間割、その他教育内容の整備に係る諸調整 ③その他開室に伴う教育環境の整備に係る諸調整、諸準備
平成 22/1/14～.15	沖縄高等特別支援学校入試
平成 22/2/2	第5回作業部会（次年度の取り組み検討②）
平成 22/2/4	第6回検討委員会（第5回作業部会報告）
平成 22/2/3～2/4	先進県視察（神奈川県、大阪府）
平成 22/3/9～10	県立高等学校、特別支援学校高等部入試
平成 22/3/29	県立特別支援学校高等部分教室担当者会議
平成 22/4/7	入学式（南風原高校分教室9名、中部農林高等学校分教室8名、久米島高等学校分教室2名）入学
平成 22/4/14	南風原高校（モデル校指定書交付式）

平成 22/4/15	中部農林高校（モデル校指定書交付式）
平成 22/4/26	分教室関係校長連絡会議
平成 22/4/30	久米島高校（モデル校指定書交付式）
平成 22/5/27	分教室担当者会議
平成 22/10/21	分教室担当者会議
平成 23/4/7	入学式（南風原高校分教室 8 名、中部農林高等学校分教室 10 名、久米島高等学校分教室 2 名）入学
平成 23/4/27	分教室関係校長連絡会議
平成 23/5/27	分教室担当者会議
平成 23/11/18	「沖縄県立特別支援学校高等部分教室設置の調査研究モデル校事業」に係る母体校・設置校アンケート調査の実施
平成 24/3/9	「沖縄県立特別支援学校高等部分教室設置の調査研究モデル校事業」に係る保護者へのアンケート（意見照会）
平成 24/5/9	分教室 関係校長連絡会議
平成 24/6/22	分教室担当者会議
平成 24.7/1 ～ 7/20	県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校に係るアンケートの実施（分教室生徒、保護者、職員）（設置高校生徒、保護者、職員）
平成 24/10/5	沖縄県立学校における特別支援学級、分校、分教室等に係る検討委員会分教室継続を決定
平成 24/10/5	教育長へ報告
平成 24/10/26	南風原高等学校分教室多目的教室竣工式（食品加工）
平成 25/3/29	県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業報告書作成

(2) 平成24年度(最終年度)の分教室の現状

分教室名	生徒数(1年)		生徒数(2年)		生徒数(3年)		合計
沖縄高等特別支援学校南風原高等学校分教室	男子	6	男子	5	男子	5	16
	女子	4	女子	3	女子	3	10
	計	10	計	8	計	8	26
沖縄高等特別支援学校中部農林高等学校分教室	男子	6	男子	6	男子	5	17
	女子	4	女子	4	女子	2	10
	計	10	計	10	計	7	27
大平特別支援学校久米島高等学校分教室	男子	1	男子	2	男子	1	4
	女子	1	女子	0	女子	1	2
	計	2	計	2	計	2	6
	合計	22	合計	20	合計	17	59

3. 各分教室の研究にかかる取組概要

研究の目的を達成するため、各分教室において、様々な取組が進められた。

特に、設置高等学校との交流及び共同学習の実施状況について、各分教室ごとに最終年度の実績を整理した。

併せて、設置高等学校の教職員が分教室の授業の教科・領域等と授業時数も表1～表3のとおりであった。

表1 【南風原高等学校分教室】平成24年度設置高等学校との交流及び共同学習の実施状況

1年	2年	3年
1. 行事…設置校すべての行事に参加 2. 体育…1年3. 4. 5組と共同学習(3h) 3. 1学年宿泊学習(国立青年の家2泊4日) 4. 各種委員会活動(生徒会)参加 5. 部活動	1. 行事…設置校すべての行事に参加 2. 体育…2年3. 4. 5組と共同学習(2h) 3. 書道…2年4. 5組と共同学習 3. 書道…2年4. 5組と共同学習 4. 音楽・美術選択…2年1. 2. 3組と共同学習(2h) 5. 各種委員会活動(生徒会)参加 6. 郷土文化…3年3組と共同学習	1. 行事…設置校すべての行事に参加 2. 体育…3年3. 4. 5組と共同学習(3h) 3. 各種委員会活動(生徒会)参加 5. 郷土文化…3年3組と共同学習(1h) 4. 部活動

設置高等学校の職員が分教室の授業(各教科)を行っている時数

1年	2年	3年
1. 書道(2h) 2. 流通サービス(2h)	1. 書道(2h) 2. 流通サービス(2h)	1. 流通サービス(2h)

南風原高等学校分教室では、設置高等学校(以下設置校とする)のすべての行事に参加することで、多くの機会をとおして交流及び共同学習の拡大を図ってきている。

また、3年生では、生徒会の各種委員会に参加することで、設置校と分教室の垣根を越えた全校的な取組を展開してきている。

**表2 【中部農林高等学校分教室】平成24年度設置高等学校との交流及び共同学習の実施状況**

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部農林の行事に参加</li> <li>・LHRで学年レク</li> <li>・1学年宿泊研修に参加</li> <li>・各種委員会活動(生徒会)に参加</li> <li>・部活動に参加</li> <li>・クリスマスカードコンテスト(英語)に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部農林の行事に参加</li> <li>・農業系列選択で共同学習</li> <li>・LHRで学年レク</li> <li>・各種委員会活動(生徒会)に参加</li> <li>・部活動に参加</li> <li>・クリスマスカードコンテスト(英語)に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部農林の行事に参加</li> <li>・農業系列選択で共同学習</li> <li>・LHRで学年レク</li> <li>・各種委員会活動(生徒会)に参加</li> <li>・部活動に参加</li> <li>・クリスマスカードコンテスト(英語)に参加</li> </ul>

**設置高等学校の職員が分教室の授業(各教科)を行っている時数**

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護2h</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護(2h)</li> <li>・農業系列選択(2h)×4学科</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護(2h)</li> <li>・農業系列選択(2h)×4学科</li> </ul>

※体育は分教室の全生徒で授業(3h)を行っており、その授業のS.Tとして中農職員が(3h)入っている。

中部農林高等学校分教室では、設置校の行事や学年レクをとおして各学年で交流及び共同学習を展開している。また、部活動にも積極的に参加し、あらゆる教育活動場面をとおして交流及び共同学習の拡大を図っていることがわかる。

**表3 【久米島高等学校分教室】平成24年度設置高等学校との交流及び共同学習の実施状況**

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校(久米島高)行事</li> <li>○生徒会行事</li> <li>○昼食時間</li> <li>○協力学級授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校(久米島高)行事</li> <li>○生徒会行事</li> <li>○朝帰りのSHR</li> <li>○昼食時間</li> <li>○部活動(陸上部)</li> <li>○協力学級授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校(久米島高)行事</li> <li>○生徒会行事</li> <li>○朝帰りのSHR</li> <li>○部活動(バドミントン、美術同好会)</li> <li>○協力学級授業</li> </ul>

**設置高等学校の職員が分教室の授業(各教科)を行っている時数**

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○美術(2)</li> <li>○体育(3)</li> <li>○職業</li> <li>・農業科学基礎(4)</li> <li>・園芸総合実習(3)</li> <li>○家庭(2)</li> <li>○総合的な学習の時間(1:内容によって精査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育(2)</li> <li>○職業</li> <li>・園芸草花(4)</li> <li>・園芸総合実習(2)</li> <li>○家庭(2)</li> <li>○総合的な学習の時間(1:内容によって精査)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育(3)</li> <li>○職業</li> <li>・園芸機械(4)</li> <li>○朝読(1)</li> <li>○総合的な学習の時間(1:内容によって精査)</li> <li>○LHR(1:内容によって精査)</li> </ul>

久米島高等学校分教室では、学校行事全般、生徒会行事、部活動等と幅広く交流及び共同学習の場を拡大し、1学年から3学年をとおして、設置校に協力学級を設定して、合同で授業を展開している。

また、設置高等学校の教員が分教室の授業を行っている状況から、総合的な学習の時間等、幅広く協働体制を図っていることがわかる。これにより、設置校の教員が分教室の生徒理解を深め、校内での生徒支援につながっていることが推測される。



## 4. 研究実施に係る生徒、保護者、教職員のアンケート調査について

### (1) 調査の目的

沖縄高等特別支援学校の分教室を南風原高等学校と中部農林高等学校、また、大平特別支援学校の分教室を久米島高等学校に設置し、モデル校事業研究に取り組み3年が経過した。

そこで、3校の分教室設置に係る成果と課題を検証するために、アンケート調査を実施した。

### (2) 調査の方法

#### ①実施時期

平成24年7月

#### ②調査対象

分教室生徒  
分教室生徒保護者  
分教室教職員  
分教室設置高等学校生徒  
分教室設置高等学校保護者  
分教室設置高等学校教職員

#### ③調査の方法

アンケート用紙を配布し記入後、各分教室で回収する  
(選択肢を設けた質問形式および記述による)

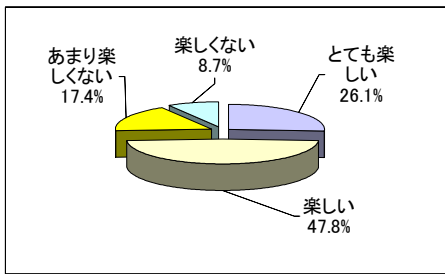
#### ④調査対象及び回答人数

- ・南風原高等学校分教室
  - ア. 分教室生徒・・・・・・・・・・23人
  - イ. 分教室生徒保護者・・・・・・・・13人
  - ウ. 分教室教職員・・・・・・・・・・9人
  - エ. 分教室設置高等学校生徒・・・・896人
  - オ. 教室設置高等学校保護者・・・・297人
  - カ. 分教室設置高等学校教職員・・41人
  
- ・中部農林高等学校分教室
  - ア. 分教室生徒・・・・・・・・・・27人
  - イ. 分教室生徒保護者・・・・・・・・14人
  - ウ. 分教室教職員・・・・・・・・・・7人
  - エ. 分教室設置高等学校生徒・・・・318人
  - オ. 教室設置高等学校保護者・・・・41人
  - カ. 分教室設置高等学校教職員・・14人
  
- ・久米島高等学校分教室
  - ア. 分教室生徒・・・・・・・・・・5人
  - イ. 分教室生徒保護者・・・・・・・・5人
  - ウ. 分教室教職員・・・・・・・・・・5人
  - エ. 分教室設置高等学校生徒・・・・187人
  - オ. 教室設置高等学校保護者・・・・67人
  - カ. 分教室設置高等学校教職員・・12人

### (3) 調査の結果と考察

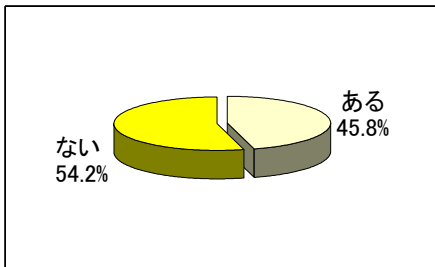
#### アー①南風原高等学校分教室 生徒アンケート結果 (23人/26人)

Q1 分教室の勉強は、楽しいですか。



とても楽しい	26.1%	6人
楽しい	47.8%	11人
あまり楽しくない	17.4%	4人
楽しくない	8.7%	2人

Q2 高校の生徒と一緒に活動（授業、部活動、行事など）をして楽しい思い出がありますか。



ある	45.8%	11人
ない	54.2%	13人

楽しい思い出（主な記述内容）

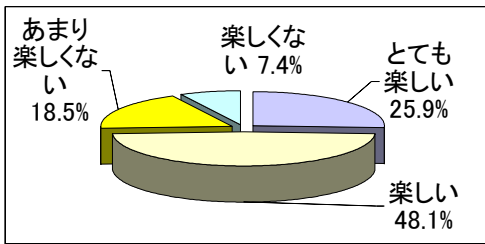
- ・ 体育がとても楽しいこと
- ・ 修学旅行で大阪、京都などを楽しんだこと
- ・ エイサーを他の学年とやったこと
- ・ 遠足

Q3 分教室の交流について今後どうなったらいいと思いますか

①高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を増やして欲しい	②高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を減らして欲しい	③分教室だけの勉強や行事を増やして欲しい	④分教室だけの勉強や行事を減らして欲しい	⑤高校生の生徒と一緒に行事の時間を増やして欲しい	⑥高校生の生徒と一緒に行事の時間を減らして欲しい	⑦本校と交流する時間を増やして欲しい
7人	5人	15人	1人	5人	5人	4人

## ア-②中部農林高等学校分教室 生徒アンケート結果 (27人/27人)

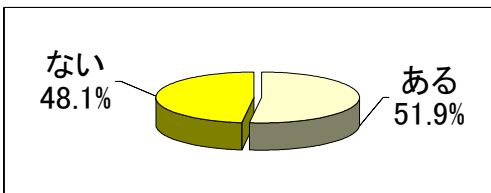
Q1 分教室の勉強は、楽しいですか。



とても楽しい	25.9%	7人
楽しい	48.1%	13人
あまり楽しくない	18.5%	5人
楽しくない	7.4%	2人

- ・みんなと話をすること
- ・おしゃべりしている時が楽しい
- ・みんなにぎやかだから

Q2 高校の生徒と一緒に活動（授業、部活動、行事など）をして楽しい思い出がありますか。



ある	51.9%	14人
ない	48.1%	13人

楽しい思い出（主な記述内容）

- ・宿泊研修
- ・皆と一緒に遊びに行ったこと
- ・スポレク（新入生歓迎球技）大会
- ・部活動でいい思い出が作れた
- ・選択授業でパソコンや絵を描けるようになった
- ・授業のときにいろいろな勉強したり、教えたりしてとてもいい思い出です

Q3 分教室の交流について今後どうなったらいいと思いますか

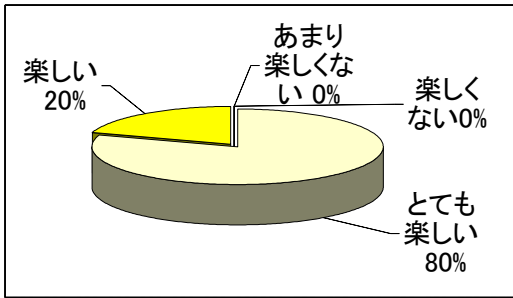
①高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を増やして欲しい	②高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を減らして欲しい	③分教室だけの勉強や行事を増やして欲しい	④分教室だけの勉強や行事を減らして欲しい	⑤高校生の生徒と一緒に行事の時間を増やして欲しい	⑥高校生の生徒と一緒に行事の時間を減らして欲しい	⑦本校と交流する時間を増やして欲しい
16人	3人	9人	6人	7人	3人	7人

今後について（主な記述内容）

- ・高校の生徒や本校の生徒と交流する時間を増やして欲しい。
- ・思い出づくりをしたい（校外学習）
- ・中農分教室の先生は、いい先生がいるので、分教室はとても楽しい
- ・もっと違う学校と一緒に授業（交流学习等）をしたい

## ア-③久米島高等学校分教室 生徒アンケート結果 (5人/5人)

Q1 分教室の勉強は、楽しいですか。

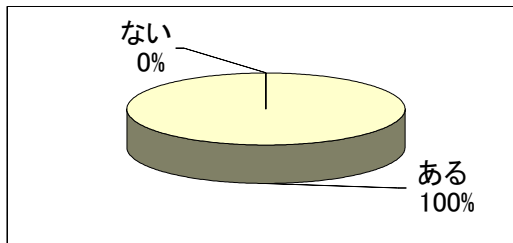


とても楽しい	80.0%	4人
楽しい	20.0%	1人
あまり楽しくない	0.0%	0人
楽しくない	0.0%	0人

楽しい面 (主な記述内容)

- ・設置高校と一緒に体育をしている時が楽しい
- ・久米島高校の生徒としゃべったり、普通科クラスの教室で食事をしたりしてとても楽しい
- ・久米島高校の生徒と一緒にいるときが一番楽しい
- ・友達とおしゃべり

Q2 高校の生徒と一緒に活動(授業、部活動、行事など)をして楽しい思い出がありますか。



ある	100.0%	5人
ない	0.0%	0人

楽しい思い出 (主な記述内容)

- ・授業をしている時が楽しい
- ・全校生徒で久米島マラソンを仲良く走ることが思い出です。
- ・久米島高祭でみんなと一緒に焼きそばを作ったこと
- ・新入生歓迎球技大会で応援したことと後夜祭で応援したこと

Q3 分教室の交流について今後どうなったらいいと思いますか

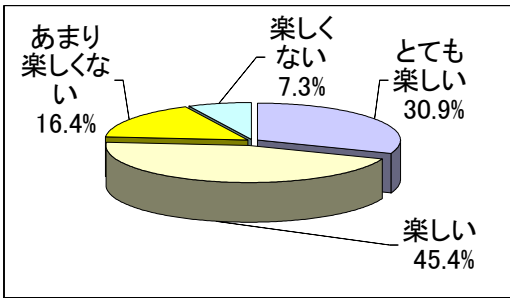
①高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を増やして欲しい	②高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を減らして欲しい	③分教室だけの勉強や行事を増やして欲しい	④分教室だけの勉強や行事を減らして欲しい	⑤高校生の生徒と一緒に行事の時間を増やして欲しい	⑥高校生の生徒と一緒に行事の時間を減らして欲しい	⑦本校と交流する時間を増やして欲しい
4人	0人	1人	0人	4人	0人	3人

今後について (主な記述内容)

- ・久米島高校生徒の授業や行事などをもっと増やして欲しい

## ア-④南風原・中部農林・久米島分教室生徒 アンケート結果のまとめ及び考察 (55人)

Q1 分教室の勉強は、楽しいですか。

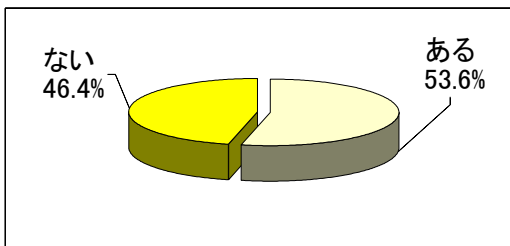


とても楽しい	30.9%	17人
楽しい	45.4%	25人
あまり楽しくない	16.4%	9人
楽しくない	7.3%	4人

### 【結果及び考察】

- ・ 8割弱の生徒が分教室での学習活動を楽しいととらえている
- ・ 楽しい面として、設置高校での授業、部活動、行事及び設置高校生との関わりをあげている

Q2 高校の生徒と一緒に活動（授業、部活動、行事など）をして楽しい思い出がありますか。



ある	53.6%	30人
ない	46.4%	26人

### 【結果及び考察】

- ・ 「思い出」という文言に戸惑ったのか消極的な回答もあったが、楽しい思い出が上回っている
- ・ 楽しい思い出の多くは設置高校での授業や部活動、行事をあげている
- ・ 分教室における授業や教師との関わりをあげている生徒もいる

Q3 分教室の交流について今後どうなったらいいと思いますか

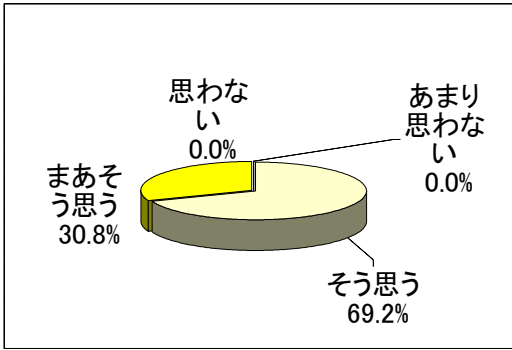
①高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を増やして欲しい	②高校生の生徒と一緒に勉強できる時間を減らして欲しい	③分教室だけの勉強や行事を増やして欲しい	④分教室だけの勉強や行事を減らして欲しい	⑤高校生の生徒と一緒に行事の時間を増やして欲しい	⑥高校生の生徒と一緒に行事の時間を減らして欲しい	⑦本校と交流する時間を増やして欲しい
27人	8人	25人	7人	16人	8人	14人

### 【結果及び考察】

- ・ 設置高校での学習活動や行事をもっと多くして欲しいとの声が多数を占める
- ・ 本校や他の学校との交流学习や分教室どおしの交流を望む声もあがっている

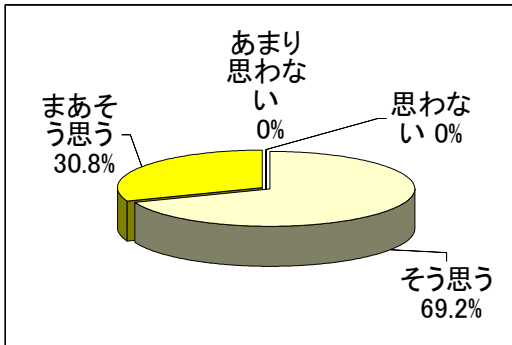
## イ-①南風原高等学校分教室 保護者アンケート結果（13人／26人）

Q1 分教室の学習は、お子様の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか



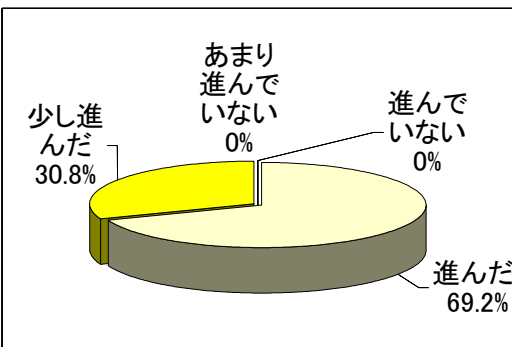
そう思う	69.2%	9人
まあそう思う	30.8%	4人
あまり思わない	0.0%	0人
思わない	0.0%	0人

Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるため学校生活となっていると思いますか



そう思う	69.2%	5人
まあそう思う	30.8%	7人
あまり思わない	0.0%	0人
思わない	0.0%	0人

Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



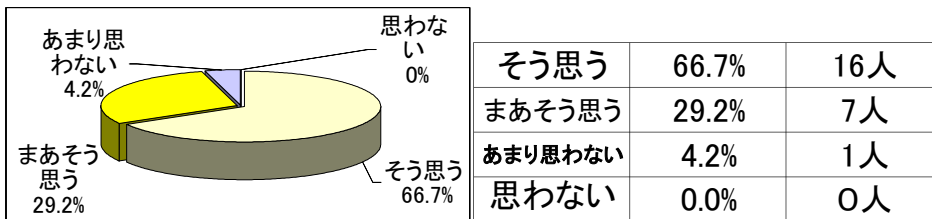
進んだ	69.2%	3人
少し進んだ	30.8%	8人
あまり進んでいない	0.0%	0人
進んでいない	0.0%	0人

Q4 分教室に関する意見

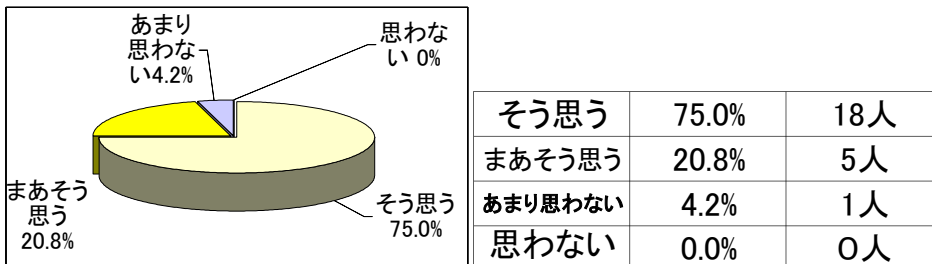
- ・ 高校生、同世代だけの学校は、今まで幼稚部と一貫の支援学校とは違うような気がする(良い意味で)
- ・ PTA役員をすることになってから、南風原高校生徒の保護者と関わるが多くなり、その方々は分教室について、当初よくわからないようであったが、高等特支の生徒が互いにに関わり、共同学習していることを徐々に理解してもらったので、安心した
- ・ 生徒だけでなく、保護者もつながりを深める努力をしなければいけないという気持ちになりました
- ・ 先生、生徒及び父兄とのつながりが欲しい
- ・ 分教室の先生方の一生懸命な姿は、子ども達にも伝わっていると思います
- ・ 就業体験先の方からも先生方が一生懸命なので引き受けて良かったと話してくれた
- ・ 分教室にいる生徒達が少人数であっても、学習レベル、内容、生徒達の意欲を向上させて欲しい
- ・ 将来（社会に出て）の為にもメンタルな部分も鍛えて欲しい
- ・ 集団認知行動療法、アサーション等、試みて可能性を広げて欲しい

## イ-②中部農林高等学校分教室 保護者アンケート結果 (24人/27人)

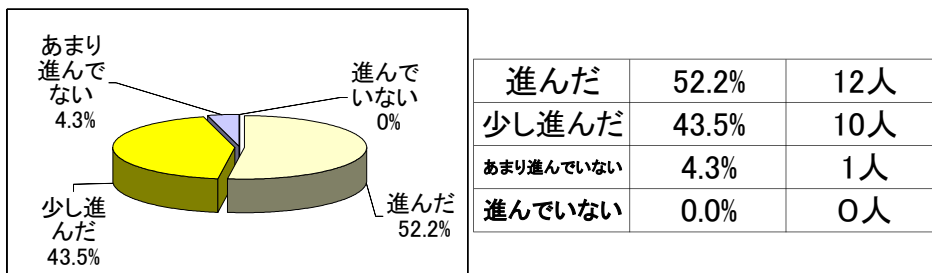
Q1 分教室の学習は、お子様の教育的ニーズに応じた内容だと思えますか



Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるため学校生活となっていると思えますか



Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思えますか

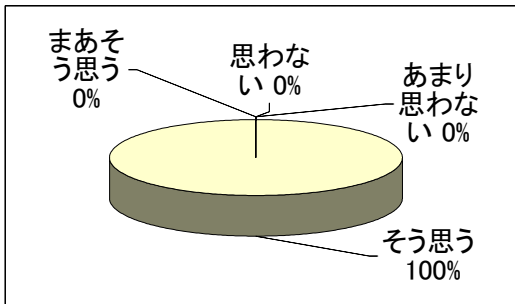


Q4 分教室に関する意見

- ・楽しく学校生活を送っています。これまでどおり、分教室生徒のペースで授業を進めてほしい
- ・連絡帳で常に学校の様子を知らせてもらい、学習内容も把握できて安心している
- ・分教室と設置校生徒同士のトラブルを心配していたが、部活動等で交流もでき良かったと思う
- ・以前まで軽度発達障害の認知度も低く、義務教育後の進路で悩む保護者もたくさんいたと思いますが、分教室の設置により進路の選択幅が広がったので、ありがたいと思っています
- ・普通学級の友人等との交流もあり、充実した高校生活を過ごしているようです。県内での分教室数をもっと拡大していただければ幸いです
- ・資格取得の環境づくりをして欲しい・職種を理解できるようなビデオ等を見せて欲しい
- ・分教室を設置することによって、受け入れ生徒数が増えたことは良いことだと思います
- ・特に、農業高校の分教室では、木工・造園など体験できたので良いと感じた
- ・分教室のある学校の生徒との交流を図って欲しい
- ・中農高各学科の勉強や資格取得、レク大会や部活動など自分の希望を実践できていると思う
- ・将来、自分なりの自立を目指して頑張りたい

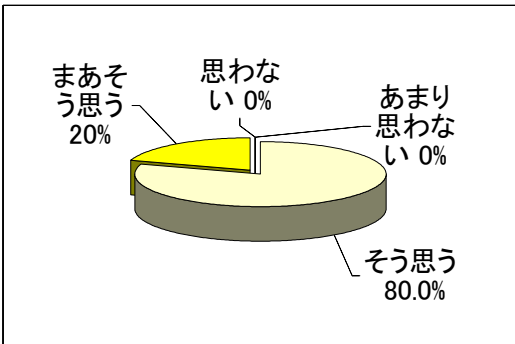
### イ-③久米島高等学校分教室 保護者アンケート結果（5人／5人）

Q1 分教室の学習は、お子様の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか



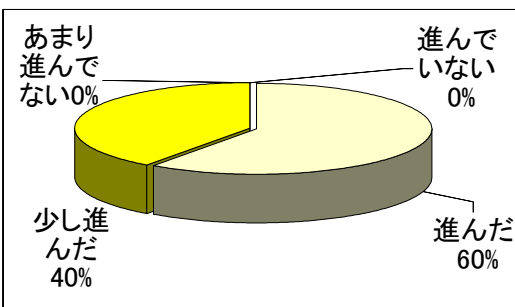
そう思う	100.0%	5人
まあそう思う	0.0%	0人
あまり思わない	0.0%	0人
思わない	0.0%	0人

Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるため学校生活となっていると思いますか



そう思う	80.0%	4人
まあそう思う	20.0%	1人
あまり思わない	0.0%	0人
思わない	0.0%	0人

Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	60.0%	3人
少し進んだ	40.0%	2人
あまり進んでいない	0.0%	0人
進んでいない	0.0%	0人

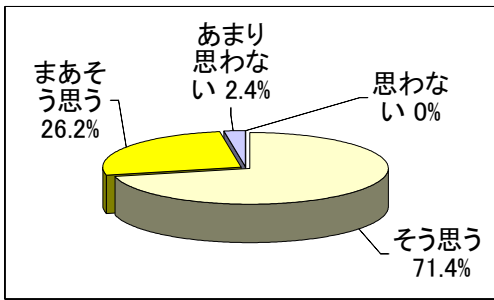
Q4 分教室に関する意見

- ・もっと教室を広くして欲しい
- ・その子にあった検定等を受けることはできませんか



## イ④南風原・中部農林・久米島分教室保護者 アンケート結果のまとめ及び考察 (42人)

Q1 分教室の学習は、お子様の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか

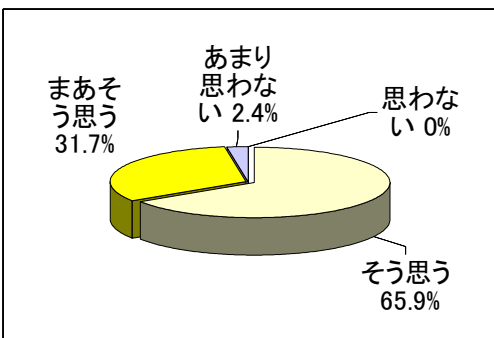


そう思う	71.4%	30人
まあそう思う	26.2%	11人
あまり思わない	2.4%	1人
思わない	0.0%	0人

### 【結果及び考察】

- ・ 9割以上の保護者が分教室の学習活動を肯定的にとらえ、理解を得ていると考えられる

Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるため学校生活となっていると思いますか

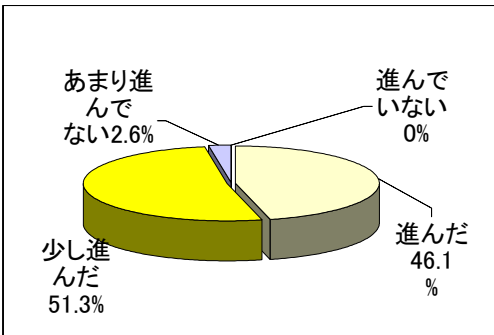


そう思う	65.9%	27人
まあそう思う	31.7%	13人
あまり思わない	2.4%	1人
思わない	0.0%	0人

### 【結果及び考察】

- ・ 9割以上の保護者が分教室生活における同世代の友との良好な関わりを認識している
- ・ 多くの保護者が分教室生活における子ども同士の発展的なつながりに期待していると思われる

Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	46.1%	18人
少し進んだ	51.3%	20人
あまり進んでいない	2.6%	1人
進んでいない	0.0%	0人

### 【結果及び考察】

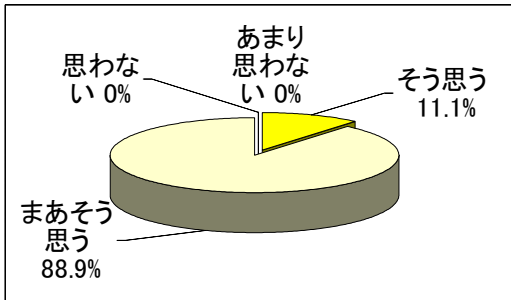
- ・ 多くの保護者が分教室設置により、障害に対する理解が進んだととらえている
- ・ 保護者にとって障害に対する高校側の理解が十分と捉えていない面もあるが、少なくとも分教室設置により、理解推進に効果をもたらしたと受け止める意見が多く見られた

Q4 分教室に関する意見

- ・ 自由記述の多くの意見から、多くの保護者が分教室設置の効果を前向きにとらえており、今後も発展的な運営を望んでいると思われる
- ・ 設置校の特色（学科、教育課程及び特別活動等）を生かした学習活動が保護者側にも少なからず評価されている面が窺え、同時に更なる分教室の拡大を望む声もある
- ・ 自立支援、進路指導及び資格取得の充実を望む声が多い
- ・ 分教室への関心度が高まっているせいか、環境整備（分教室施設等）に係る要望も増えている
- ・ 分教室職員の懸命な努力も保護者側の評価を高めている要因の1つとなっている

## ウ-①南風原高等学校分教室職員 アンケート結果（9人／9人）

Q1 分教室の学習は生徒の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか

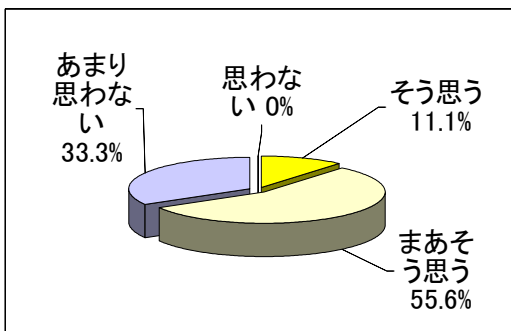


そう思う	11.1%	1人
まあそう思う	88.9%	8人
あまり思わない	0.0%	0人
思わない	0.0%	0人

### 教育内容について（主な記述内容）

- ・「共生」、「共学」、「職業自立」は教育的ニーズの中心となっている。その実現のために教育課程を検討しており、さらなるニーズに備えたいと考えているが、日々実践をとおした研究を継続しているので、ある程度のニーズには対応できていると思う
- ・就職に向けて生徒に力をつけさせるとともに、設置校の特色を生かした授業もあり、良い経験になっていると思う
- ・通常の高校に特別支援学級等があれば分教室の必要性が無い。通常の学校で学ぶ選択肢が分教室しかないならば、分教室の存在意義は大きい
- ・生徒の教育的ニーズ（就職向けの訓練等）に応じるための施設設備が十分に整っていないことが大きな課題である
- ・分教室設置当初、見切り発車でスタートした感が否めず、不十分な点がある  
これまで、職員の工夫や生徒の実態に応じて、臨機応変に対応してきた  
継続的な対応については詳細を検討中である

Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるための学校生活となっていると思いますか

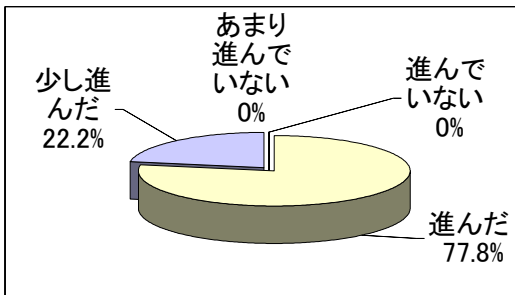


そう思う	11.1%	1人
まあそう思う	55.6%	5人
あまり思わない	33.3%	3人
思わない	0.0%	0人

### 学校生活について（主な記述内容）

- ・部活動（南風原卓球部・中農野球部）では大きな成果をあげ、社会的にも大きなインパクトがあったと思う。ただ、設置校の行事に参加することで、存在自体はアピールできたと思うが、参加することに意義があるというレベルであり、積極的な交流をするという点ではまだ不十分
- ・両校（母体校、設置校）管理者側からの働きかけがもっと欲しい
- ・分教室内では、良好な友人関係を築いていると思う
- ・「分教室の生徒である」という生徒の意識はある。「分教室の生徒」という枠組みがある限り、同世代の友というよりも、同世代の分教室の人であり、普通の人とは違うという認識がある
- ・同じ講座を受けたり、設置校生徒との部活動や講座などを通してコミュニケーションが取れていると思う
- ・つながりのないところからは何も生まれない。分教室があるからこそつながれる
- ・設置校生徒との行事や共同学習を積極的に推進しているが、繋がりを深めているかどうか未知数

Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	77.8%	7人
少し進んだ	22.2%	2人
あまり進んでいない	0.0%	0人
進んでいない	0.0%	0人

障害の理解について（主な記述内容）

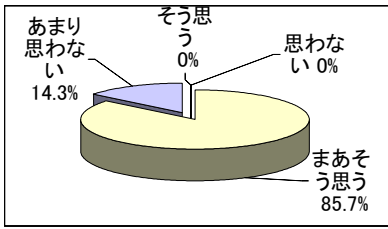
- ・分教室の存在で意識が高まるし、様々な取組ができる。分教室があるとないとでは、雲泥の差である
- ・理解は不十分だが、障害に対する配慮や心配り等、他の普通高校に比べ、意識は高まっていると思う
- ・「分教室の生徒」という枠組みがあるので、設置校の生徒、職員に「知的障害のある人はこんな感じなんだな」というイメージが伝わりやすい。分教室設置が障害に対する理解を促進すると思う
- ・職員間、生徒間でも障害についての理解は進んでいるように感じる
- ・障害については、これから少しずつ理解されていくと思う
- ・設置校職員から障害児とのかかわり方や分教室生徒の実態などについての質問がよくあるのは、興味持っている証であると思う。また、設置校にも障害を持った生徒が複数在籍しているので、周囲の生徒にとっても理解が進んでいると思う

Q4 分教室に関する意見

- ・高校の部活動参加等は、良い交流機会だと思うが、他はそれほどの交流もなく、双方のつながりが深まるほどではないと思う
- ・障害を持った方々の社会参加に対する地域・保護者のニーズと学校現場（特に母体校）の捉え方に大きな隔たりがあるということが分教室に在籍することでよく見えてきた
- ・県や母体校の閉鎖的な慣習（新しい取り組みに対する消極的な姿勢）に行き詰まりを感じている新たな挑戦をしようとしている分教室職員のやる気を削ぐ出来事が多々ある
- ・設置校生徒、職員及びPTAに、多くの面でサポートしていただき感謝の気持ちでいっぱいである
- ・分教室の教育実践に携わっていることが、教師としてとても刺激的で貴重な経験をさせてもらっていると思う。生みの苦しみは多々あるが、充実した毎日を送っている
- ・特別支援学級では、だめなのか
- ・この2年間にわたる取組みの課題として、設置校と分教室職員間の「遠慮」があげられる
- ・分教室事業はとてもすばらしいシステムだと思います

## ウ-②中部農林高等学校分教室 職員アンケート結果（7人／9人）

### Q1 分教室の学習は生徒の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか

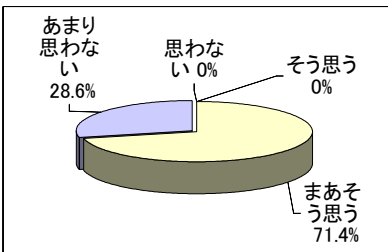


そう思う	0.0%	0人
まあそう思う	85.7%	6人
あまり思わない	14.3%	1人
思わない	0.0%	0人

#### 教育内容について（主な記述内容）

- ・職業教育に重点をおいた教育課程なので良いと思う
- ・施設設備が充実すると学習の幅がさらに広がると思う

### Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるための学校生活となっていると思いますか

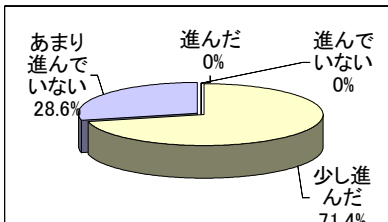


そう思う	0.0%	0人
まあそう思う	71.4%	5人
あまり思わない	28.6%	2人
思わない	0.0%	0人

#### 学校生活について（主な記述内容）

- ・分教室内のつながりは強いように思えるが、設置校の生徒との交流が少ないように思われる
- ・もっと積極的に部活動等に参加すれば、つながりが強化されると思う
- ・学校行事で設置校の生徒会が人数の調整やサポートを配慮したり、部活動でともに汗を流し、大会に参加していることはとても良いと思う
- ・部活動や生徒会活動（委員会）はつながりを強めることに繋がっていると思う

### Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	0.0%	0人
少し進んだ	71.4%	5人
あまり進んでいない	28.6%	2人
進んでいない	0.0%	0人

#### 障害の理解について（主な記述内容）

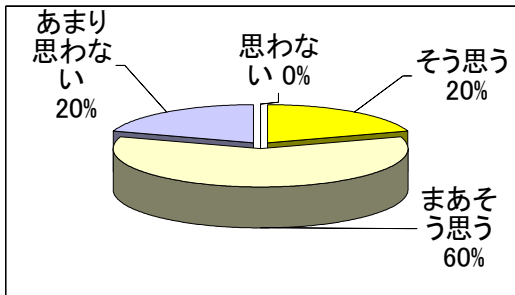
- ・これまでの活動をとおして、分教室生徒の方がある面で秀でているところや、こなせる面が予想以上に多いことが、わかってもらえたと思う
- ・部活や実習など一緒に活動できる場面をもっと増やしたい
- ・「障害」の程度にも幅があるので一概に「進んでいる」とは言い難いが、ある程度の理解が進んでいると思う

### Q4 分教室に関する意見

- ・十分な検証もなく、拙速に導入したことで、様々な場面で不都合が生じている。予算面、施設設備及び人的配慮など、県には十分な対応をお願いしたい
- ・中農は、各学科棟があるので、分教室棟があると良い
- ・分教室を設置する際は、教育課程をしっかりと履修できるよう学習環境を整える必要がある。（作業室、備品、予算等）
- ・入学時に分教室の授業や設置校との関わり方に戸惑い、なかなか馴染めない生徒もいるため、中学校での十分な進路指導が必要と思われる
- ・分教室はスタートしたが、自からの障害について受け入れられず、設置校の生徒と同じ普通の高校生だと勘違いする生徒がでてきたように思う。障害のあることを認識させるため、入学前に本人、保護者及び学校間で確認する必要がある
- ・生徒・保護者が分教室の教育内容をよく理解した上での入学でないと、高校に通っているつもりで終わってしまう
- ・入試を含め、分教室の運営（方向性）学習環境の整備をきちんと進めてもらいたい

### ウ-③久米島高等学校分教室 職員アンケート結果 (5人/5人)

#### Q1 分教室の学習は生徒の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか

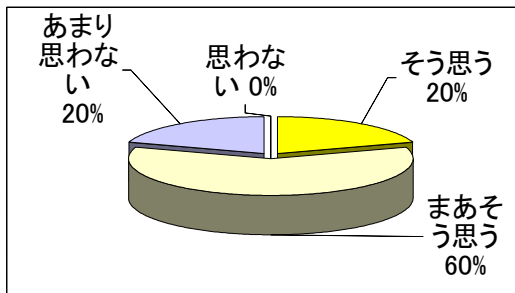


そう思う	20.0%	1人
まあそう思う	60.0%	3人
あまり思わない	20.0%	1人
思わない	0.0%	0人

#### 教育内容について (主な記述内容)

- ・少人数の生徒なので、個別の指導計画に沿った指導内容を教師が工夫することが可能である
- ・設置校との共同学習は、内容によっては非常に難しく、ニーズに応じているのか疑問に思うこともある。また、作業学習も限られたものであるため、機会を与えられているか分からない
- ・行事や実習などは一緒にできるが、家庭科や農業基礎などの座学は本人たちには、難しいと思うし、他の方法で教えることを模索したいと思う

#### Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるための学校生活となっていると思いますか

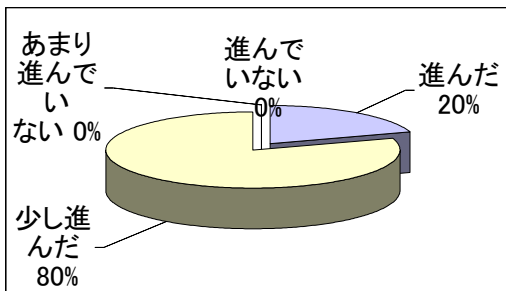


そう思う	20.0%	1人
まあそう思う	60.0%	3人
あまり思わない	20.0%	1人
思わない	0.0%	0人

#### 学校生活について (主な記述内容)

- ・校内での声かけはあるが、帰宅してからのつき合いはほぼない。しかし、学校生活が楽しそうなので、分教室の生徒は満足している様子である
- ・生徒や学年にもよりますが、久米高生の中に入れずに分教室生徒同士で固まっている例が多いので、それより、本校で同じ仲間と伸び伸びと生活した方が良いかと思います
- ・設置高生徒全体で分教室の生徒に温かく接しているのので、互いに良好な関係を築きつつあると思う
- ・朝・帰りのSHRや園芸科の授業を毎日楽しみにしている様子がうかがえる

#### Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	20.0%	1人
少し進んだ	80.0%	4人
あまり進んでいない	0.0%	0人
進んでいない	0.0%	0人

#### 障害の理解について (主な記述内容)

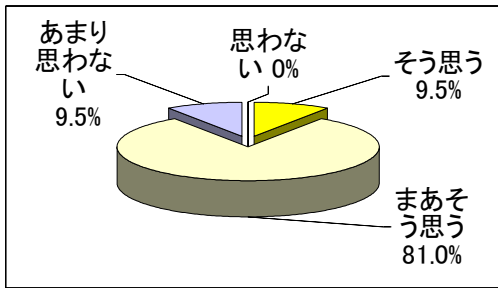
- ・小さい島で、幼なじみのような存在が多数いるので、受け入れもスムーズに感じる
- ・もともと、中学校が一緒だった生徒は、分教室生徒の実態を把握している。そんなに変化はないと思う  
他中学出身の生徒には、少しずつ理解してもらえていると思う

#### Q 4 分教室に関する意見

- ・久米島高生の中で、生徒指導するのはやりにくい部分があります。例えば、授業態度や生活態度など、なぜ、分教室の生徒だけ注意されるのか疑問に感じている部分もあると思います
- ・人数的にも、何を行うにしても、設置校への遠慮を感じながら実践している。備品・施設設備もやはり設置校優先である。職員会議も受け身で参加している状況である。1つの場所に2つの学校があると言うことは生徒数からいっても対等ではない気がします。また、近くに管理者が居ない不便さもあります。生徒の中には制服や校則は久米島高校なのに、学校は大平特支というシステムで、理解しにくいところもあると思います
- ・準備期間があまりにもなく、スタートしてから整えていくことは大変に難しいものがある。離島にある分教室、本校は本島という状況で、お互いの方向性に温度差を感じるものがたびたびある。担当者の力量に任せた運営は重いものがある。他の分教室とは違う環境を理解していただき、方策をお願いしたい
- ・本校にはない教育課程を編成することができることはとても良いことである。その反面、施設設備が整った本校では可能であっても、分教室ではできないことがたくさんある。また、大勢の中での活動で得ることの重要性もあり、分教室でできないことである。このことを加味しながら、離島の子どもたちにとって活動を活発化させることが重要である
- ・久米島分教室は久米島高校の時刻表に沿った教育課程を運営し、高校側との交流及び共同学習の充実を図るために、教師の負担が大きくなっている
- ・協力学級と交流及び共同学習を深めるために朝、帰りのSHRに参加している。その前後に分教室生徒へ補足が必要となり、独自のSHRを行うことになる。職員も出勤時間を早めて登校する。また、1年時に週あたり半分の授業を協力学級と一緒にいるため、その教科の補足や補修が必要な場合もある昼食も生徒と一緒にとることがほとんどで、休憩時間もとれない事が多い。職員人員が多いようにみ運営状態である。生徒数は少なくとも、教育の保障をするためには、ある程度の職員配置が必要である

## ウ-④南風原・中部農林・久米島分教室職員 アンケート結果のまとめ及び考察 (21人)

Q1 分教室の学習は、生徒の教育的ニーズに応じた内容だと思えますか

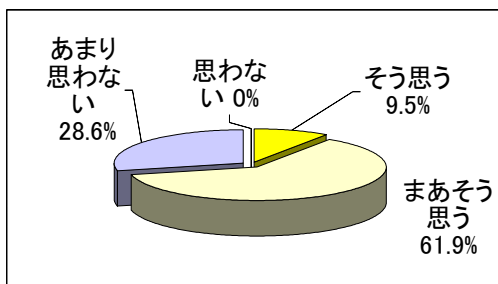


そう思う	9.5%	2人
まあそう思う	81.0%	17人
あまり思わない	9.5%	2人
思わない	0.0%	0人

### 【結果及び考察】

- ・約9割の教師が分教室の教育的ニーズを概ね肯定的に捉えている
- ・教育課程や行事参加等に係る調整が不十分で、詳細な検討の必要性をあげている
- ・学習展開には施設設備の充実が不可欠としている

Q2 分教室では、同世代の友とのつながりを強めるため学校生活となっていると思えますか

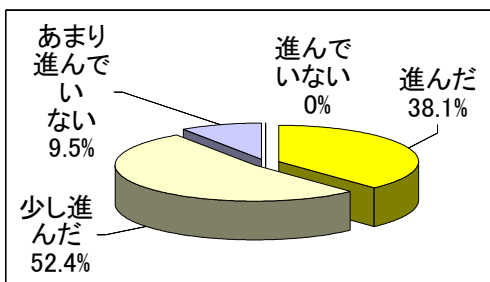


そう思う	9.5%	2人
まあそう思う	61.9%	13人
あまり思わない	28.6%	6人
思わない	0.0%	0人

### 【結果及び考察】

- ・約7割の教師は、生徒が同世代の友とのつながりを強めるための学校生活を送っていることを認識している。一方で、分教室生徒同士のつながりに比べ、設置校生徒との交流の少なさを指摘する声もある
- ・交流推進へ向けて、両校（母体校、設置校）管理者側からの働きかけを望む声もあった

Q3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思えますか



進んだ	38.1%	8人
少し進んだ	52.4%	11人
あまり進んでいない	9.5%	2人
進んでいない	0.0%	0人

### 【結果及び考察】

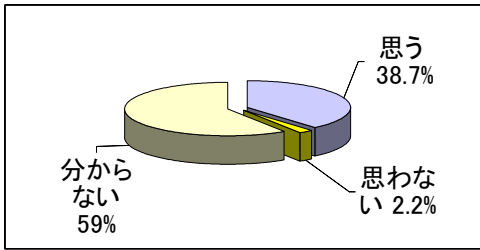
- ・分教室設置により、約9割の教師が障害に対する理解が比較的進んだと認識している
- ・分教室の存在そのものが、障害に対する理解を促進したという捉え方もあった

Q4 分教室に関する意見

- ・備品・施設設備もやはり設置校優先なので、設置校へ遠慮しながら実践している現実をあげている
- ・1つの場所に2つの学校のあることが対等ではないこと、近くに管理者が居ない不便さもあげている
- ・障害を持った方々の社会参加に対する捉え方について、地域・保護者と学校現場間に大きな隔たりのあることが、分教室に在籍することでよく見えてきたという回答もあった
- ・分教室の教育実践は、教師として貴重な経験であり、生みの苦しみはあるが、充実した毎日を送っているという前向きな意見もあった
- ・予算面、施設設備及び人的配慮などに十分な対応をお願いしたいとの声多く有り
- ・自からの障害を受入れられず、設置校生徒と同じ高校生だと認識する生徒がいることをあげ、有障害を認識させるため、入学前に本人、保護者及び学校間で確認する必要性を述べている

## エー①南風原高等学校生徒 アンケート結果（回答者896人）

Q1 あなたは自分の学校に分教室が設置されて、良かったと思いますか。

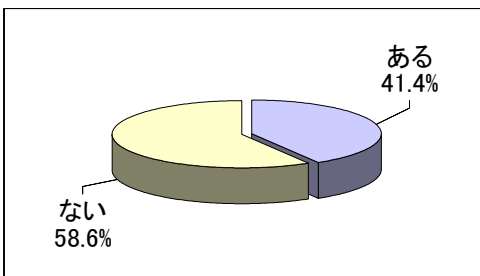


思う	38.7%	347人
思わない	2.2%	20人
分からない	59.0%	529人

### 分教室設置は良かったか（主な記述内容）

- ・いつも元気で明るくて良いと思う。
- ・個人的だと思った。
- ・内容によるけどほとんど楽しいのでよい。
- ・親睦スポーツ大会などみんなと同じように楽しめるからよい。
- ・あまり印象がないのでわからない。
- ・作業頑張っていると思うのでよい。
- ・何をしているのかわからない。
- ・10組(分教室)の生徒は一生懸命だ。
- ・分教室の皆さんがいつも美化活動を頑張っていることが印象的。
- ・ずっと掃除とかしているから雑用させているみたい。
- ・接し方とか分かるようになった。
- ・あまり関わっていないのでわかりません。
- ・分教室のみんなと一緒にいる授業が楽しい。
- ・いろいろな交流ができるのでよい
- ・良い点もあるが欠点もある気がする。
- ・どちらでもない。
- ・健常者と障害者の壁がなくなったと思う。
- ・普通にみんなと同じクラスでいいと思う。

Q2-1 あなたは分教室の生徒と一緒に活動(授業, 部活動, 行事など)をしたことがありますか。



ある	41.4%	370人
ない	58.6%	524人

### 授業、部活、行事等の内容（抜粋）

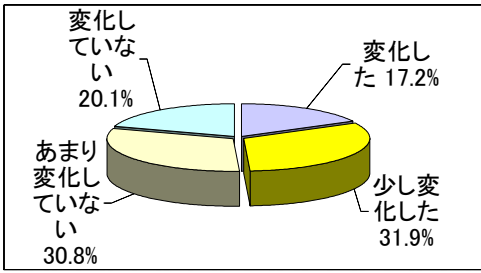
- ・サッカー部と一緒に
- ・遠足や空手の授業
- ・体育祭の障害物リレー
- ・宿泊学習
- ・郷土の授業
- ・部活をしたが、先輩に対する態度がよくなかった
- ・新入生歓迎会
- ・生徒会、校外ボランティア
- ・部活
- ・芸術、体育の授業

Q2-2、 Q2-1で「ある」と答えた方で、一緒に活動したことについて記憶に残っていること

- ・特に違和感はない
- ・何をやるにも一生懸命の印象だった
- ・普通の人と何も変わらないと思った
- ・交流が少ない
- ・花壇の草むしり
- ・体育祭に向けての練習
- ・わがままな人が多い、後片付けしない人がいたことにイラッとした
- ・もう少し責任を持ってほしい
- ・教えられたことを一生懸命取り組む
- ・球技大会の練習で楽しくできた
- ・自分以上に学校で汗と涙と自力で頑張っている姿を見て感動した
- ・卓球ですごい成績を残したこと
- ・文化祭での劇
- ・空手の型一緒にやった
- ・しゃべってみたら普通の子で楽しかった
- ・宿泊学習で怖い話をした
- ・今までは距離を置いていたがイメージが変わり仲良くなった子もいる



Q3 あなたは分教室が設置されたことによって、障害に対する意識が以前と比べ変化しましたか。



変化した	17.2%	152人
少し変化した	31.9%	282人
あまり変化したくない	30.8%	273人
変化していない	20.1%	178人

障害に対する意識の変化について (主な意見〈抜粋〉)

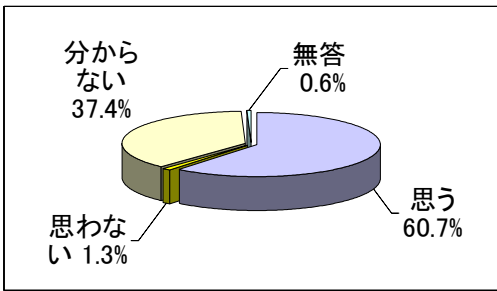
- ・何の問題もない, 気にならない
- ・あまり障害者との壁を感じなくなった
- ・障害の人への思いやりが以前よりでてきた
- ・設置して良かった
- ・あまり接したことがないので変化なし
- ・自分たちと違うと思った
- ・分教室が設置されたことも知らなかった
- ・分教室の方々と交流を持たない限り、理解できないので変化していません
- ・甘やかされて育っているのか好き勝手する人が多い
- ・高校に入学し分教室の生徒と仲良くなり、もっと交流したいと思った
- ・偏見があったけど、普通に接することを知った
- ・分教室の人達と触れあうことで自分自身も変わっていく気がする
- ・学校に設置されているので誇りに思う
- ・困っていたら助けてあげようと思った
- ・もともと偏見を持っているわけではなかったので変わらない
- ・差別するのはいけないと思った
- ・特に何も思わない
- ・分教室の説明もないし、関わることもないので分からない
- ・みんな普通のクラスにした方がよい
- ・周りに気配りするようになった

Q4 分教室の生徒との今後の交流(授業, 部活動, 行事)についてどのような意見を持っていますか (抜粋)

- ・一緒にいろいろな活動をしていきたい
- ・困っていたら助けてあげようと思う
- ・障害に対する偏見なく接していきたい
- ・まだ、あまり分からないから交流してみたいと思う
- ・世の中にはいろいろな人がいることがわかった
- ・何の活動をしているかよく分からないので、知りたい
- ・教室を分ける必要はない(一緒にクラス編制すればよい)
- ・彼らも一人の人間として感じてきた
- ・話したこともないが、これから話す機会もあるはずだから、普通に友達として話してあげたい
- ・一緒にできる教科(体育・美術)があると思うので一緒にその授業を受けたい
- ・分教室の生徒を高校の生徒として認めて欲しい
- ・分教室があるのだから、そちらの生徒と交流する場を増やして欲しい
- ・同じ生徒として良い友達になれたらと思う
- ・行事とか一緒になったら積極的に話しかける
- ・少しでも関わりを持つ場があればいいと思う
- ・今まで通りでよいと思う
- ・特に意見はない
- ・あまり関わりたくない
- ・同じ学校の生徒として一緒に頑張りたい

## エー②中部農林高等学校生徒 アンケート結果 (回答者318人)

Q1 あなたは自分の学校に分教室が設置されて、良かったと思いますか。

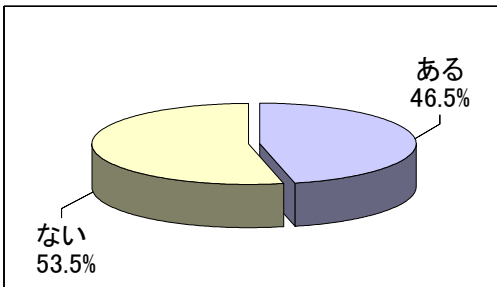


思う	60.7%	193人
思わない	1.3%	4人
分らない	37.4%	119人
無答	0.6%	2人

分教室設置は良かったか (主な記述内容)

- ・分教室があるのはいいと思う
- ・障害者への偏見とか減ったと思う
- ・友達が増える
- ・選択授業などで、関わりを持てるからお互いにいい機会だと思う
- ・触れあう機会が少ない
- ・行事とか一緒になったりするけど、ぜんぜん私たちと変わらないと思った
- ・分教室の生徒が初めて野球の大会に出てよかった
- ・行事が楽しくなった
- ・バスの中で迷惑している
- ・印象は残ってない
- ・普通のクラスと変わらない
- ・一生懸命でみんな頑張っているのよ
- ・遅刻ゼロでよく表彰されているのよ

Q2-1 あなたは分教室の生徒と一緒に活動(授業、部活動、行事など)をしたことがありますか。



ある	46.5%	145人
ない	53.5%	170人

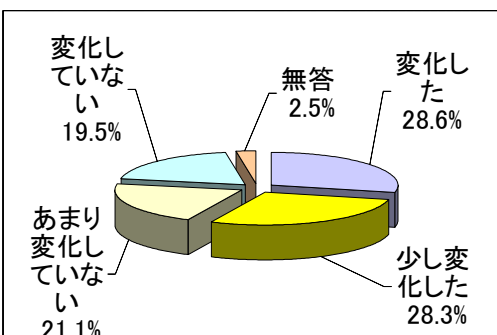
授業、部活、行事等の内容 (抜粋)

- ・選択授業 (熱帯資源、園芸、造園、食品化学)
- ・スポーツ大会 (3年生を送る会)
- ・宿泊学習
- ・FFO大会
- ・講話
- ・学園祭
- ・校内マラソン
- ・野球部
- ・バドミントン部
- ・サッカー部

Q2-2、 Q2-1で「ある」と答えた方で、一緒に活動したことについて記憶に残っていること

- ・別に、自分たちと変わらない
- ・意外と関わりやすかった
- ・特にない、普通でした
- ・説明に時間がかかって面倒くさい、話を聞かない
- ・教えるのが大変だが楽しい
- ・分教室生徒が最後の学年に、野球公式戦出場場の夢がかない本当に嬉しかった
- ・リボンづくり
- ・けっこう覚えが早い子もいた
- ・ダンスが上手だった
- ・農作業を一緒にした
- ・一緒にクッキーやフラワースタンドを作った
- ・ドッジボールの強い子がいた

Q3 あなたは分教室が設置されたことによって、障害に対する意識が以前と比べ変化しましたか。



変化した	28.6%	91人
少し変化した	28.3%	90人
あまり変化していない	21.1%	67人
変化していない	19.5%	62人
無答	2.5%	8人

#### 障害に対する意識の変化について（主な意見〈抜粋〉）

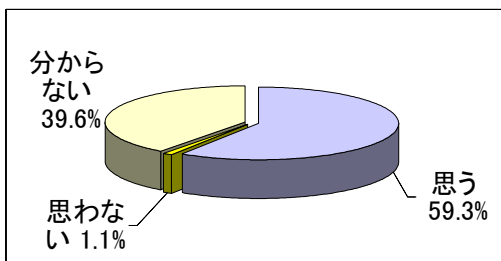
- ・健全者とほとんど変わらない
- ・もともと障害者等に偏見を持っていないから変化なし
- ・たとえ障害を持っていても同じ人だということを知りました
- ・周りの人とペースが違うだけだと思うから、もっと普通のクラスと関わるべき
- ・障害があってもなくても同じ
- ・もう少し交流を増やしたらよいと思う、交流してみたいです
- ・交流することによって、普通の人となんら変わらないと思った
- ・分教室があることによって、もっと見近に感じられるようになった
- ・偏見を持っていたが、一緒に同じ空間でバレーボールをした時に楽しかった
- ・分教室が設置されただけでは変わらない、交流とかあまりないから変化なし
- ・バリアフリーに対する関心が上がった

#### Q4 分教室の生徒との今後の交流(授業, 部活動, 行事)についてどのような意見を持っていますか 〈抜粋〉

- ・行事などもっと持っても良いと思う
- ・もっと関わっていけたらお互いにプラスになるかと思う
- ・学年ごとにレクをしたい
- ・分教室生徒達の学校生活の姿は「中農」の模範だと思う
- ・特に何も思っていない、どうも思わない
- ・普通の人と変わらない
- ・分教室の人と交流をするのは、障害を理解するために必要だと思う
- ・分教室生徒と関わる機会、行事を増やしたら、交流も深まり、意識も高くなると思う
- ・交流は楽しいし、自分とは違う考えを聞くことができ、いろいろ参考になる
- ・分教室の生徒も部活動を頑張ってるすごいと思う
- ・行事とか以外で普通の時も関わることができれば良いと思う

### エー③久米島高等学校生徒 アンケート結果（回答者187人）

Q1 あなたは自分の学校に分教室が設置されて、良かったと思いますか。

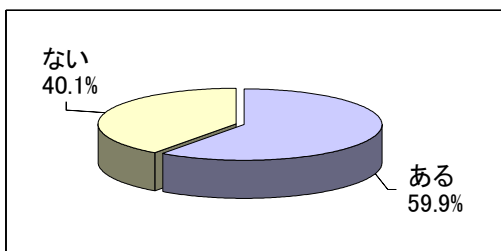


思う	59.3%	111人
思わない	1.1%	2人
分らない	39.6%	74人

分教室設置は良かったか（主な記述内容）

- ・中学校からの友達が特別支援学校に行かなくても同じ環境で過ごせるから良い
- ・なぜ、別れて設置されているのかわからない
- ・先生たちが甘い、うるさい
- ・自分にあった勉強ができるのでよい
- ・同級生なのに差があるのが嫌
- ・あいさつなど声をかけるだけで嬉しそう
- ・話をするようになった
- ・友達になれた
- ・いろいろな活動を頑張っていて、自分たちと変わらないから偏見とかも何もないです
- ・とても仲良くしてもらっている、人として、独特の個性がすごく楽しい
- ・一緒に授業をして楽しいから
- ・いろいろな行事で参加できたこと
- ・何も変わらない
- ・一生懸命やっているのが印象に残っている
- ・一緒に笑って学校生活を送れる

Q2-1 あなたは分教室の生徒と一緒に活動(授業, 部活動, 行事など)をしたことがありますか。



ある	59.9%	112人
ない	40.1%	75人

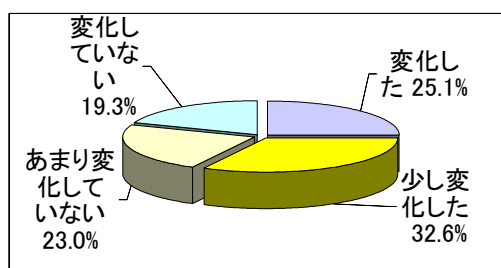
授業、部活、行事等の内容（抜粋）

- ・園芸等の授業
- ・HR
- ・総合
- ・体育、美術
- ・ハーリー
- ・プロイラーの解体
- ・陸上
- ・一緒に走ったマラソン大会
- ・久米高祭
- ・球技大会
- ・新入生歓迎球技大会

Q2-2、 Q2-1で「ある」と答えた方で、一緒に活動したことについて記憶に残っていること

- ・一緒に作業などを頑張った
- ・一緒にプロイラーの解体をしたこと
- ・卵のパック詰め
- ・分教室の生徒とは思えないぐらい、何事にも積極的に取り組んでいて素晴らしいと思う
- ・園芸実習
- ・販売会
- ・バスケットボール、サッカーなどをした
- ・マラソン大会
- ・あいさつとかしてくれるから、とても良い気持ちになる
- ・一緒に楽しみ、一緒に遊んだ
- ・新入生歓迎球技大会

Q3 あなたは分教室が設置されたことによって、障害に対する意識が以前と比べ変化しましたか。



変化した	25.1%	47人
少し変化した	32.6%	61人
あまり変化していない	23.0%	43人
変化していない	19.3%	36人

#### 障害に対する意識の変化について（主な意見〈抜粋〉）

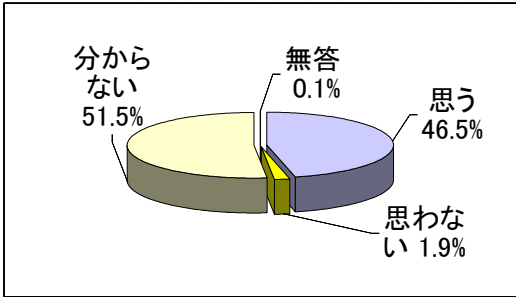
- ・障害者を普通の人と差別しないとかいって甘やかしている
- ・少しだけ気を遣う
- ・障害者を抱えている人を以前から差別したことはないし、まして、普通に「友達」として接している
- ・身近に障害者いるので普通
- ・障害者について、普通の人と同じと捉えることができるようになった
- ・どんな風に話したら良いかなど前より考えるようになった
- ・相手の気持ちを考えるようになった
- ・前まで関わりにくかったけど、今は普通に関わっている
- ・小学校から一緒なので偏見はない
- ・障害の人がどれだけ大変かわかりました
- ・障害はあまり関係ない
- ・接し方とか勉強になった
- ・コミュニケーション取るのが楽しい
- ・意識を高く持つことができた
- ・絆が深まった
- ・障害を持つ人でも一緒に活動したり、接したりできるのだと思った
- ・あまり交流がないので変化はない

#### Q4 分教室の生徒との今後の交流(授業, 部活動, 行事)についてどのような意見を持っていますか 〈抜粋〉

- ・交流をたくさんやった方がみんなの思いやりの気持ちとかできて良いと思う
- ・一緒に頑張りたい
- ・社会に出ていく上でいろいろな人との交流は大事だと思うからこれからもどんどん交流していきたい
- ・別々が良い（分教室を置かないで特別支援学校へ通学させる）
- ・あまりいらない
- ・分教室の人と同じ扱いされているので良いと思う
- ・もっと増やして良い
- ・このまま続けて良い
- ・一緒に授業して楽しいし、普通に接していく
- ・インターンシップを一緒にしたい
- ・一緒に会話したり、実習したりもっと仲良くなりたい、一緒に卒業したい
- ・もっと普通科のクラスと交流した方がよいと思う
- ・一緒に活動したいし、仲間として意識している

エ-④南風原・中部農林・久米島高校生徒 アンケート結果のまとめ及び考察  
(回答者総数 1,401人)

Q1 あなたは自分の学校に分教室が設置されて、良かったと思いますか。

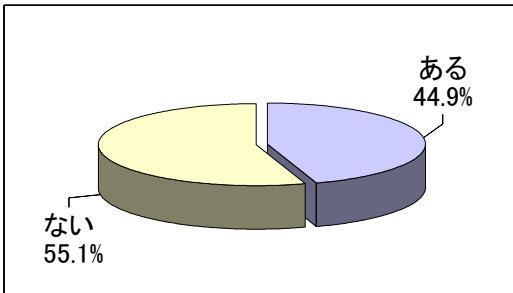


思う	46.5%	651人
思わない	1.9%	26人
分らない	51.5%	722人
無答	0.1%	2人

【結果及び考察】

- ・分教室設置について5割弱が肯定的な見方であり、障害者への偏見が減ったという意見もあった
- ・中学校からの友達が特別支援学校に行かなくても同じ環境で過ごせるから良いとの意見もあった
- ・分教室設置に係る否定的な回答や意見は当初の予想をかなり下回っている
- ・下記設問Q2-1において、行事での共同活動等が無い(約55%)ことを受けて、分教室設置自体、運営内容等がよく「わからない」とする回答(51.5%)に反映されていると思われる
- ・今後の積極的な交流促進と交流の在り方が課題であるとともに運営内容の充実が望まれる

Q2-1 あなたは分教室の生徒と一緒に活動(授業, 部活動, 行事など)をしたことがありますか。



ある	44.9%	627人
ない	55.1%	769人

【結果及び考察】

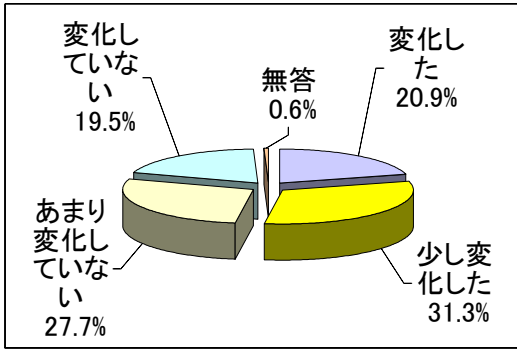
- ・設置校生徒の半数以上が共同活動を未だ経験していないことが浮き彫りになっており、交流及び共同学習活動計画の充実と設置校の協力が不可欠であると考えられる

Q2-2、 Q2-1で「ある」と答えた方で、一緒に活動したことについて記憶に残っていること

【結果及び考察】

- ・さまざまな回答があったが、行事や授業などの共同学習が比較的順調に進んでいる感を受ける抜粋した意見は下記のとおりである。
- ・説明に時間がかかって面倒くさい ・教えるのが大変だが楽しい
- ・良い点もあるが欠点もある気がする ・もう少し責任を持ってほしい
- ・部活動で先輩に対する態度がよくなかった
- ・分教室の生徒とは思えないぐらい、何事にも積極的に取り組んでいて素晴らしいと思う
- ・わがままな人が多い、後片付けしない人がいたことにイラッとした
- ・今までは距離を置いていたが、イメージが変わり仲良くなった子もいる

Q3 あなたは分教室が設置されたことによって、障害に対する意識が以前と比べ変化しましたか



変化した	20.9%	290人
少し変化した	31.3%	433人
あまり変化していない	27.7%	383人
変化していない	19.5%	271人
無答	0.6%	8人

【結果及び考察】

- ・設置校生徒の約半数以上が障害者に対する意識の変化をあげており、分教室設置に起因することがうかがえる
- ・半数近くの生徒が「変化なし」としているものの、意見の中に「もともと障害者等に偏見を持っていないから変化なし」とする回答もあり、分教室の存在可否に関わらず、障害者に対する姿勢は以前と「変わらない」として、これらを受け止めている
- ・分教室と交流することによって、普通の人となんら変わらないとする意識の変化や親近感をおぼえるようになったとする意見がかなりあった
- ・「交流がないのでわからない、変化なし」とする受身的な回答も多く見受けられ、「分教室が設置されただけでは変わらない」とする意見はわずかであった

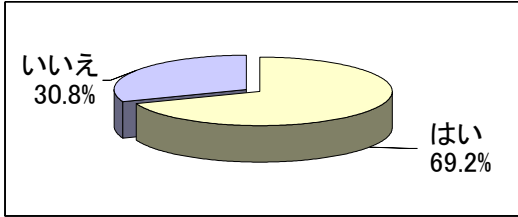
Q4 分教室に関する意見

【結果及び考察】

- ・分教室生徒と関わる機会、行事を増やせば交流も深まり、意識も高くなるという意見多し
- ・お互いのプラスを強調する意見も多く、教室を分ける必要はない（一緒にクラス編制すればよい）とする提案もあった
- ・特に何も思っていない、何かしようとか思わないとする冷めた見方もあり、別々が良い（分教室を置かないで特別支援学校へ通学させる）とする意見も見られた
- ・全般的に設置校生徒が分教室との共同学習活動に好意的である印象を受けた

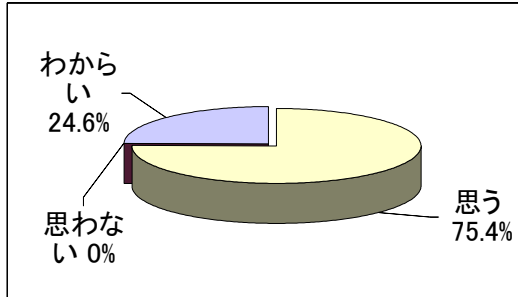
オ-①南風原高等学校保護者 アンケート結果（回答者297人）

Q 1 貴校に特別支援学校の分教室が設置されたことをご存じですか



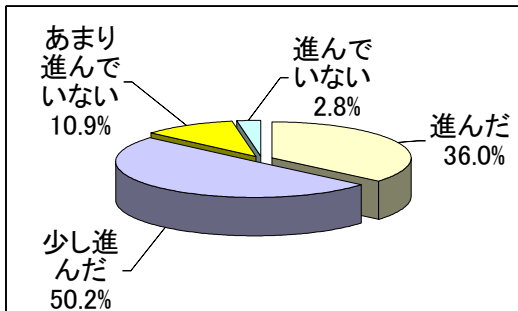
はい	69.2%	255人
いいえ	30.8%	42人

Q 2 「はい」と答えた方で、高等学校内に分教室が設置されたことは良かったと思いますか



思う	75.4%	193人
思わない	0.0%	0人
わからない	24.6%	63人

Q 3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	36.0%	89人
少し進んだ	50.2%	124人
あまり進んでいない	10.9%	27人
進んでいない	2.8%	7人

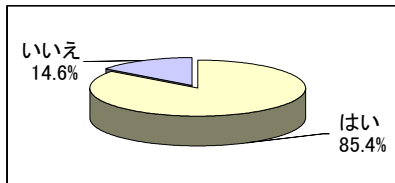
Q 4 分教室に関する意見〈抜粋〉

- ・他の高校にももっと設置すべきだ
- ・一般の生徒との交流が持てるので良いと思う
- ・分教室のあり方等については未知数だと思いますが、これから理解度を上げていけば良いと思う
- ・障害者が健常者に接することは、良いことだと思うので、続けた方がよいと思う
- ・本校が障害の有無に関係なく共同学習を取り入れたことは、保護者の一人として誇りに思う
- ・分教室についての説明が不十分なので、もっと周知徹底を図る必要があると思います
- ・分教室の件をアンケートで知った。良い取組みのようで素晴らしいことだと思う
- ・何よりも生徒自体の障害に対する理解が進めば、将来的に非常によい結果が得られると思います
- ・障害者施設で働いているので、分教室を拡大し、知的障害者を一人の人間として見て欲しい
- ・特別支援学校の分教室を設置することで、今後、障害に対する理解が進んでいくと考えます
- ・学校公開日などで分教室を見学できると良い



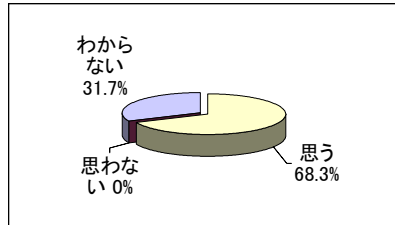
## オ-②中部農林高等学校保護者 アンケート結果 (回答者41人)

Q 1 貴校に特別支援学校の分教室が設置されたことをご存じですか



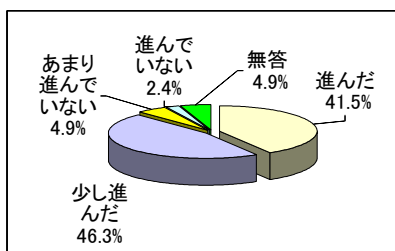
はい	85.4%	35人
いいえ	14.6%	6人

Q 2 「はい」と答えた方で、高等学校内に分教室が設置されたことは良かったと思いますか



思う	68.3%	28人
思わない	0.0%	0人
わからない	31.7%	13人

Q 3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



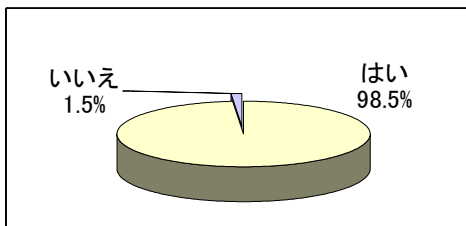
進んだ	41.5%	17人
少し進んだ	46.3%	19人
あまり進んでいない	4.9%	2人
進んでいない	2.4%	1人
無答	4.9%	2人

Q 4 分教室に関する意見 (抜粋)

- ・先生方と生徒との繋がりも厚いと感じた
- ・先生方次第で良くも悪くもなると思う
- ・分教室の生徒が設置校の生徒と一緒に部活動を行い、野球の公式戦参加ができて感動しました
- ・校内の行事などで、いろいろな人と関わることは良いことだと思います
- ・分教室生徒が頑張っている姿に共感したり、相手をいたわる気持ちを育んだり学ぶ点が多いと思う
- ・分教室は大変良いことだと思います。障害に対する理解は必要です
- ・分教室生徒も設置校で科目を選び、試験を受けられるか、専門の資格も取得することはできるか？
- ・得意な分野を伸ばすことのできる環境を提供することは普通校にはまねのできないことだと思う
- ・他の普通高校、職業高校へも分教室普及を望みます
- ・高校野球県大会に特別支援学校の生徒が中農の一員として出場するという記事にとっても感動しました
- ・もっと交流の機会をつくって欲しい
- ・分教室設置を知ったのは入学式でしたが、一人一人の生徒を尊重し、とても良い印象を受け、誇らしく思いました

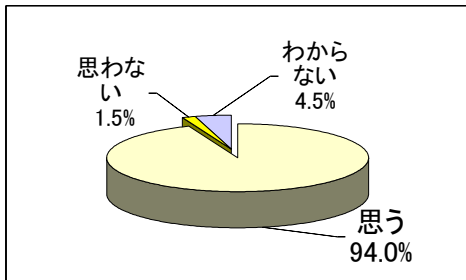
### オ-③久米島高等学校保護者 アンケート結果（回答者67人）

Q 1 貴校に特別支援学校の分教室が設置されたことをご存じですか



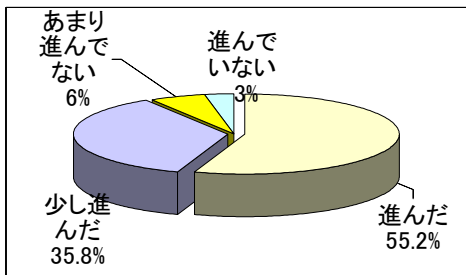
はい	98.5%	66人
いいえ	1.5%	1人

Q 2 「はい」と答えた方で、高等学校内に分教室が設置されたことは良かったと思いますか



思う	94.0%	63人
思わない	1.5%	1人
わからない	4.5%	3人

Q 3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



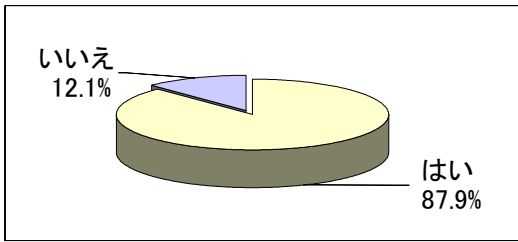
進んだ	55.2%	37人
少し進んだ	35.8%	24人
あまり進んでいない	6.0%	4人
進んでいない	3.0%	2人

Q 4 分教室に関する意見（抜粋）

- ・この島に分教室があるおかげで、生活や経済的にも救われた生徒・保護者がいる
- ・教育の機会均等を唱えるのであれば、弱者の視点で考えて欲しい
- ・普通学校の生徒と分教室の生徒が共に学ぶ姿こそ、教育の本質に迫ると思う
- ・今後も継続してもらいたい
- ・体育の授業を一緒にやっていると言うことを聞いていますが、もっと他の授業にもどんどん合流したら、他の生徒にとってもいいのではないかと思います
- ・障害者に対する偏見がなくなり、特別な人と思わなくなり、一緒に学ぶことで人間性を学んでいけるので、分教室は設置されて良かったと思います
- ・分教室の活動は、地域でも大変評判が良い。地域にあることが良いことだと思う
- ・分教室の生徒が公共施設を利用して、ハウスクリーニング訓練を行っています。そのおかげでとてもきれいになりました
- ・分教室を広くして欲しいです。分教室の活動が社会貢献につながっていると思います
- ・もっと分教室のことをアピールしても良いと思います
- ・久米高に分教室が設置されたことは大変良いことだと思うが、地域の方々は知らない人が多いので、もっと地域に溶け込んだ授業ができればいいのでは・・・

オ-④南風原・中部農林・久米島高校保護者 アンケート結果のまとめ及び考察  
(回答者405人)

Q 1 貴校に特別支援学校の分教室が設置されたことをご存じですか

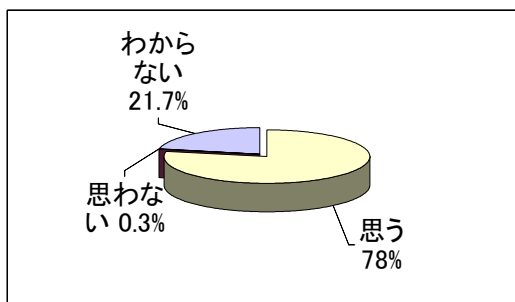


はい	87.9%	356人
いいえ	12.1%	49人

【結果及び考察】

- ・ 9 割弱の保護者が分教室の設置を知っており、関心の程度がうかがえる
- ・ 分教室の設置を知らない保護者について、学校間で 1.5～30%の範囲で差があったが、単純に情報を得ていないだけで、特に顕著な理由は見当たらない

Q 2 「はい」と答えた方で、高等学校内に分教室が設置されたことは良かったと思いますか

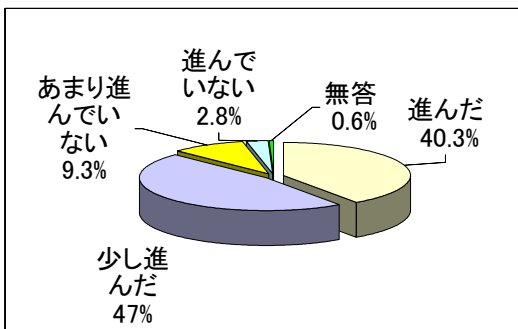


思う	78.0%	284人
思わない	0.3%	1人
わからない	21.7%	79人

【結果及び考察】

- ・ 8 割弱の保護者が分教室設置を好意的に捉えており、関心も高い
- ・ 「わからない」と回答した保護者は、分教室の内容をよく理解していない方が多いと思われ、判断に窮した面が伺える

Q 3 高等学校内に分教室が設置されたことで、障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	40.3%	143人
少し進んだ	47.0%	167人
あまり進んでいない	9.3%	33人
進んでいない	2.8%	10人
無答	0.6%	2人

【結果及び考察】

- ・ 9 割弱の保護者が分教室設置により、障害に対する理解がおおよそ進んだとしており、設置の意義を認める結果となっている
- ・ 「理解が進んでいない」とした保護者は、理解啓発に消極的というより、交流に乏しい実状に起因するものではないかと思われる

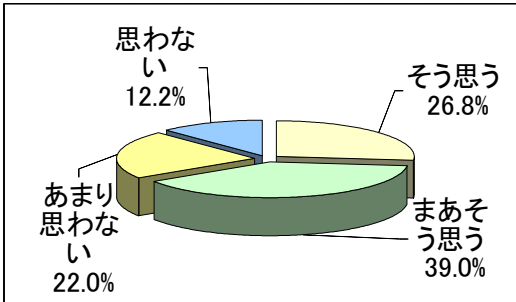
#### Q4 分教室に関する意見〈抜粋〉

##### 【結果及び考察】

- ・多くの保護者が分教室運営と障害に対して理解があり、継続についても肯定的である。
- ・離島への分教室設置で、生活や経済的にも救われた生徒・保護者がいたとの報告あり
- ・他の普通高校、職業高校へも分教室の普及、拡大を望むという声もあった
- ・分教室についての説明が不十分なので、地域も含めて周知徹底を図る必要性を唱えている
- ・今後の分教室運営は先生方の手腕にかかっているとの期待もある
- ・障害に対する理解の必要性を認識した上で、分教室設置の効果を多くあげている
- ・障害の有無に関係なく共同学習を取り入れたことは、保護者の一人として誇りに思うとの意見あり
- ・高校野球県大会に特別支援学校の生徒が全国で初めて出場！という記事に感動したとの声多し
- ・もっと交流の機会をつくって欲しいとの要望が多い

## カ-①南風原高等学校職員 アンケート結果（41人）

Q1 分教室が設置されたことが高校の特色のひとつになっていると思いますか

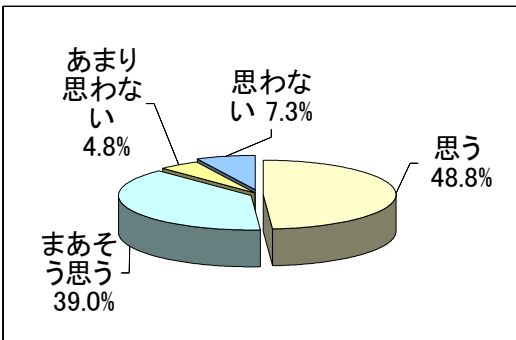


そう思う	26.8%	11人
まあそう思う	39.0%	16人
あまり思わない	22.0%	9人
思わない	12.2%	5人

### (分教室の特色に関する意見)

- ・特色の一つになっていると思うが、あくまでも分教室であることを理解してもらう必要がある
- ・今のところ、特異ではあるが、特色とは言えない
- ・外部にあまり知られていないので、もっとアピールすべき、バリアフリー実践校とかいう感じで
- ・教室が狭い、多目的教室がないなど設備の面で支障がある
- ・分教室卓球部の生徒が活躍し、新聞に載ったおかげで、本校の知名度も多少上がったかもしれない  
(理想として本校の生徒がさらに活躍し、定員割れ解消につながった方がいいのですが)

Q2 高校の生徒にとって分教室の生徒との交流は、教育上意義あるものだと思いますか

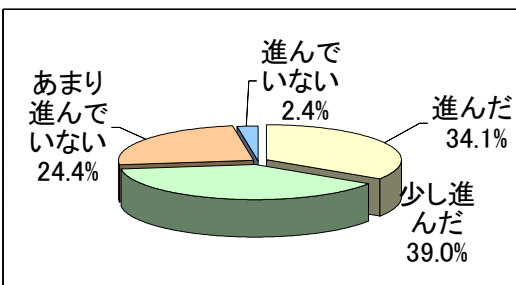


思う	48.8%	20人
まあそう思う	39.0%	16人
あまり思わない	4.8%	2人
思わない	7.3%	3人

### (分教室生徒との交流に関する意見)

- ・思いやりの心が育っていると思う
- ・部活、委員会ではやや交流があるが、意識して働きかけないとつながりが切れてしまう
- ・本校の生徒とすぐ交流するには難しいことも多い
- ・行事を一緒にすることだけでも教育上意義あるものと思う
- ・同じ校舎内において行事等を共にしているだけで交流が盛んとは思わない
- ・障害を有する生徒が賢明に学習や部活に励む姿は他者に感銘を与え、刺激になっていると思われる
- ・授業を一緒に受ける時間がもっと増えると良い

Q3 分教室が設置されたことで、生徒や職員にとって障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	34.1%	14人
少し進んだ	39.0%	16人
あまり進んでいない	24.4%	10人
進んでいない	2.4%	1人

#### (障害に対する理解について)

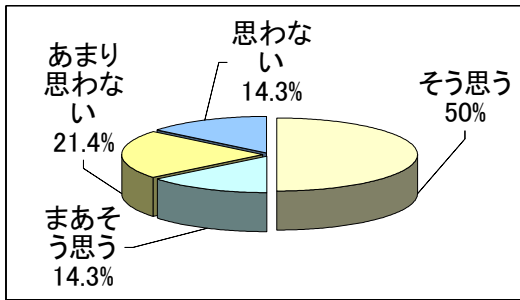
- ・他のクラスとの合同行事が少ないので理解が進んでいるとは、言いがたい
- ・分教室生徒の障害というより、発達障害も含めて本校生徒全体の障害に対する意識と理解が深まった
- ・授業を担当している職員の理解は進んだと思うが、それ以外の職員の理解は低いと思う
- ・生徒の理解は「場」を持たなければ進まないと思うので、関連する研修など有意義だと思う

#### Q4 分教室に関する意見

- ・教室等施設の設置、設備充実が喫緊の課題である
- ・設置したからには、本校（母体校）と同等の授業ができるような対応（設備・人員）が必要
- ・施設・設備の充実→設置という順序が望ましい。分教室があつて良かったと思えるような
- ・設置してどのような効果があつたのか疑問である。南風原高校がどのように映っているのか知りたい
- ・施設、備品が不十分で、十分な教育活動ができなかった生徒のことを考えると問題が多かつたと思う
- ・校舎の件で職員の要望がとおらなかつたのが残念。分教室の生徒、職員はよく頑張っていると思う
- ・分教室の生徒、職員が肩身の狭い思いをしないように、また、本校の生徒や職員が不自由な思いをしないよう今後も環境整備をしていただきたい
- ・職員も増えて、交流も増えて、新発見も多い、とても良い経験になっています
- ・分教室の職員のおかげでいろいろ助かっています
- ・これからも、お互いに学ぶことが多くあり、生徒にも影響を与えるのではないかと思う
- ・まだまだ改善しなければならぬ点が多いが、生徒同士の意識に変化が見られると思う

## カ-②中部農林高等学校職員 アンケート結果（14人）

Q1 分教室が設置されたことが高校の特色のひとつになっていると思いますか

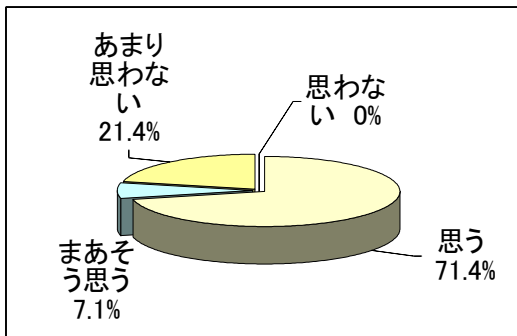


そう思う	50.0%	7人
まあそう思う	14.3%	2人
あまり思わない	21.4%	3人
思わない	14.3%	2人

### （分教室の特色に関する意見）

- ・ 特別支援学校の特色ではあるが、設置高校の特色ではないと思う
- ・ 学校はしっかり区別した方が良い。元に戻して欲しい
- ・ 高等特別支援学校の受け皿を近くの高校にお願いしたような形にしか感じられない
- ・ 県内でもまだまだ数が少ないので、特色のひとつになっていると思う
- ・ 設置校職員、生徒にとって、多様な生徒と関われるし、分教室生徒との交流は有意義なことだと思う
- ・ 分教室設置は意義があるが、設置高の特色としては疑問が残る。本質が依然理解されていないと思う
- ・ 野球部、サッカー部などの活動状況も良くなっているので、特色のあるものとなっている
- ・ 分教室としては、とても特色のある取組みを担っていると思う
- ・ （野球部の）照屋君の活躍でますます特色を感じるようになった

Q2 高校の生徒にとって分教室の生徒との交流は、教育上意義あるものだと思いますか

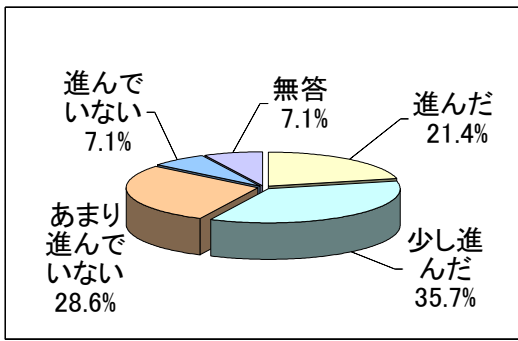


思う	71.4%	10人
まあそう思う	7.1%	1人
あまり思わない	21.4%	3人
思わない	0.0%	0人

### （分教室生徒との交流に関する意見）

- ・ 分教室の生徒にとって、大集団の中で生活することは良いことだと思う
- ・ 高校の生徒たちも部活動で交流できることは有意義だと思います。
- ・ 分教室の意義はあると思いますが、分教室生徒の特徴を知るだけの交流はないと思います
- ・ 選択科目を担当しているが、お互い打ち解けている感じがしない。授業の中で関係を密にしていきたい
- ・ 分教室と学科の混合クラスによるスポーツ大会も協力しあって取り組む姿勢は素晴らしい
- ・ 分教室の生徒も同じ高校生として見ていると思います。特に本校は学科がたくさんあるので、その中で「少人数クラス」という特徴をもつ、1つの学科とっているようです
- ・ 障害のある、なしに関わらず、生徒会活動、学校行事及び授業を一緒に行うことにより、社会に出て行った際、他人への理解が高まり、自然に接することができると思う
- ・ 交流による変化をあまり感じない

Q 3 分教室が設置されたことで、生徒や職員にとって障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	21.4%	3人
少し進んだ	35.7%	5人
あまり進んでいない	28.6%	4人
進んでいない	7.1%	1人
無答	7.1%	1人

(障害に対する理解について)

- ・軽度の知的障害なのでわかりにくい部分はあるが、情報の共有などで理解していけると思う
- ・本来であれば同じ環境で教育を受けるべきだと思うが、現状は厳しい。健常者と同じようにできることは同じようにやった方がいいと思うので、それを実践する機会の多い分教室は障害を理解するよいシステムだと思う。生徒も職員も理解が深まると思う
- ・教育課程が根本的に違うため、農業や福祉及び一部の本校職員のみ関わっている現状では、障害の状態が理解されていないし、障害理解が進むはずがないと思う
- ・生徒の好奇の目が関心の目になってきているように、職員も理解を持てるようになった
- ・分教室の生徒と先生の対応は、とても参考になります。一緒にいるだけで大変勉強になります
- ・障害に対する理解は進んでいると思いますが、関わる時間が少ないのが課題です
- ・授業を担当したり、交流が少なく、生徒たちの特徴を知ることができない
- ・特別支援の生徒、状況についての勉強会の場を設けても良いかと思います

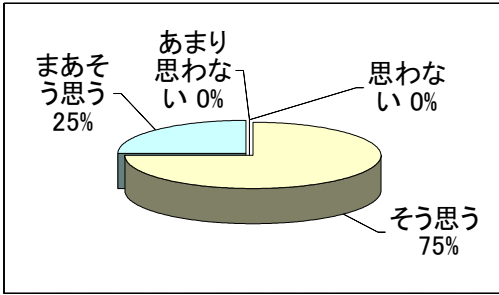
Q 4 分教室に関する意見

- ・双方の生徒にとって、お互いを理解する上で意義があると思うが、中学校生徒、教員及び保護者等に分教室制度があまり周知されていないのが残念である
- ・中農に支援学級があると勘違いしている人も多い
- ・分教室の職員が設置校側にかえって気を遣っている
- ・分教室の生徒や先生方が地道に取り組む姿を見ると我々も頑張らねばと励みになる
- ・モデル事業に関して、県教委のトップダウンで事業を進め、職員、設置校、施設環境など、調整のための準備期間を作らなかったのは、汚点であることを認識してほしい
- ・野球部員である分教室の照屋君を通じて、多くの生徒と気軽に話し合うことができ大変勉強になった今回の分教室事業は成功といえるのではないか
- ・授業担当もなく生徒とコミュニケーションの時間もとれず、残念である（できれば担当したい！）この分教室システムが充実すればインクルーシブ教育として、教育上意義あるものと思う
- ・分教室の生徒、職員ともとても仲良くさせてもらっている。楽しく学校生活を送っており、今のところ問題はないと思います



### カ-③久米島高等学校職員 アンケート結果（12人）

Q1 分教室が設置されたことが高校の特色のひとつになっていると思いますか

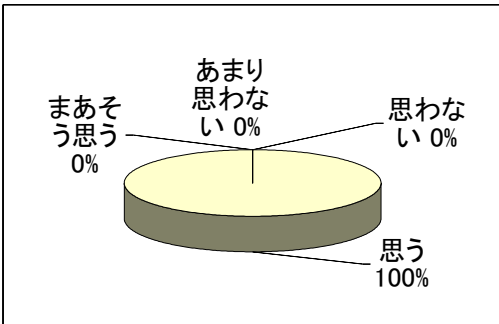


そう思う	75.0%	9人
まあそう思う	25.0%	3人
あまり思わない	0.0%	0人
思わない	0.0%	0人

(分教室の特色に関する意見)

- ・問題点や課題などあると思うが、障害を持っている生徒がすぐ近くにいることで、学ぶことも多い
- ・分教室の先生方は、本校と比べ大変だと思うがとても良い取組みで、地域に貢献している

Q2 高校の生徒にとって分教室の生徒との交流は、教育上意義あるものだと思いますか

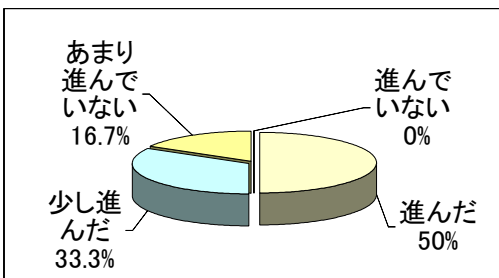


思う	100.0%	12人
まあそう思う	0.0%	0人
あまり思わない	0.0%	0人
思わない	0.0%	0人

(分教室生徒との交流に関する意見)

- ・島内で、障害を持った人達と偏見なく接していくためにも、高校で一緒に学ぶことは大切だと思います
- ・普通科の生徒との交流を授業等でもっと増やせないか
- ・分教室の生徒たちにとって意義があるのか、疑問や不安を感じる
- ・相手を思う優しさが育つと思う。平和壁新聞等への取組みをとおして刺激になっている

Q3 分教室が設置されたことで、生徒や職員にとって障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	50.0%	6人
少し進んだ	33.3%	4人
あまり進んでいない	16.7%	2人
進んでいない	0.0%	0人

(障害に対する理解について)

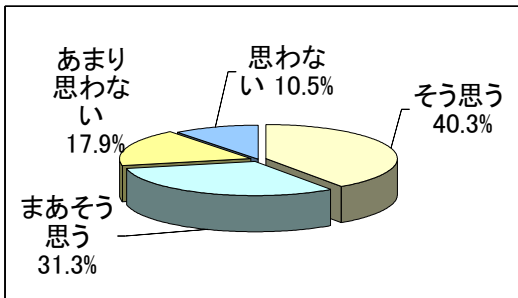
- ・学年会等で情報交換の場があるので、理解が深められお互い勉強になります
- ・特別支援教育について、理解を深めるきっかけだと感じている。より良い支援の一助となれるよう頑張りたい
- ・実際に接することで、障害に対する恐怖感がなくなったのではないか
- ・障害等の職員研修がないので、正直、理解に苦しむところがある
- ・職員に対して、障害についての研修を行ってもらえると、より理解も深まるのではないかと思います
- ・日頃の授業で、障害があることによる理由で困ったことはない

#### Q4 分教室に関する意見

- ・分教室の生徒・職員に係る情報交換や生徒指導関係の相談など積極的に行うべきだが、うまくいかない
- ・交流する実習時間は限られているが、できるだけ関わりを持ってたらと思う
- ・分教室設置の際は説明が不十分で混乱したが、生徒達が順調に学校生活を送っているので安心している
- ・クラスの生徒も分教室の生徒と普通に接しているのでとても良いと思う。行事も一緒に参加できて良い
- ・導入時に職員の反対も強かったと聞いているが、導入後は職員・生徒・地域の理解が深まっている  
これからは、教育計画（施設面を含め）を充実させ、さらに幅を広げる必要がある。
- ・本校は職員数が少ないので、分教室職員も本校の校務分掌に入れてもらえると助かる  
是非、検討していただきたい

## カー④南風原・中部農林・久米島高校職員 アンケート結果のまとめ及び考察 (回答者 67人)

Q1 分教室が設置されたことが高校の特色のひとつになっていると思いますか

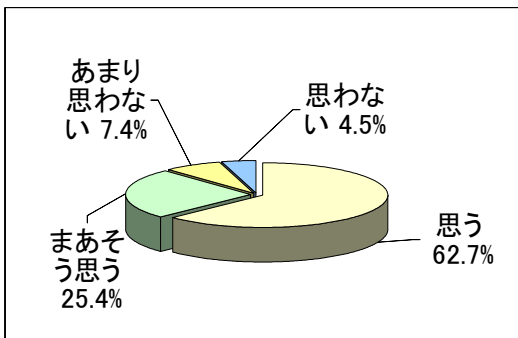


そう思う	40.3%	27人
まあそう思う	31.3%	21人
あまり思わない	17.9%	12人
思わない	10.5%	7人

### 【結果及び考察】

- ・設置校職員の7割程度が分教室を設置高校の特色の1つととらえている
- ・分教室は設置高校の特色でなく、特別支援学校の特色だとする職員の意見もあった。
- ・「学校はしっかり区別した方が良い」「元に戻して欲しい」という分教室否定意見も少数あり
- ・分教室設置は意義があるが、設置高の特色としては、未だ理解がなされていないとする意見あり
- ・肯定的意見の多くは分教室事業自体の取組みを評価し、特色の一つととらえていると思われる
- ・特色として知られていないので、外部にもっとアピールすべきという意見あり
- ・分教室生徒の部活動状況も良くなっているため、特色あるものとした見方もあった

Q2 高校の生徒にとって分教室の生徒との交流は、教育上意義あるものだと思いますか

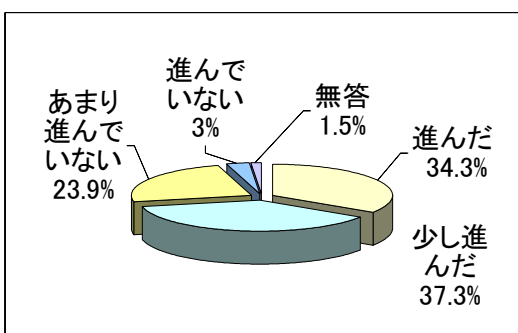


思う	62.7%	42人
まあそう思う	25.4%	17人
あまり思わない	7.4%	5人
思わない	4.5%	3人

### 【結果及び考察】

- ・設置校職員の9割弱が分教室生徒との交流を意義あるものにとらえている
- ・有意義だとする意見は・・・
- 「障害を有する生徒が学習や部活に励む姿は他者に感銘を与え、刺激になっている」
- 「障害のある、なしに関わらず、交流学習を行うことで、社会人となっても他者への理解が深まり、自然に接することができると思う」・・・などがあげられた
- ・分教室の意義は認めるが、交流学習の不足を指摘する意見も少なからずあった
- ・交流による変化をあまり感じないとしたのはわずかであった

Q3 分教室が設置されたことで、生徒や職員にとって障害に対する理解が進んだと思いますか



進んだ	34.3%	23人
少し進んだ	37.3%	25人
あまり進んでいない	23.9%	16人
進んでいない	3.0%	2人
無答	1.5%	1人

### 【結果及び考察】

- ・設置校職員の7割程度が障害に対する理解が進んでいるとしている
- ・分教室生徒と関わる時間を増やすことで障害に対する理解が進むのではという意見あり。
- ・分教室の生徒と先生の対応は参考になり、一緒にいるだけで勉強になるという声あり
- ・教育課程が根本的に違うので、一部の職員のみが関わるのなら、障害理解は進まないとする意見もあった

### Q4 分教室に関する意見 (抜粋)

#### 【結果及び考察】

- ・双方の生徒にとって、お互いを理解する上で意義があると思うが、中学校生徒、教員及び保護者等に分教室制度があまり周知されていないのが残念である
- ・『中部農林高校』に特別支援学級が設置されていると勘違いしている人も多い。
- ・分教室の職員が設置校側にかえって気を遣っている
- ・分教室の生徒や先生方が地道に取り組む姿を見ると我々も頑張らねばと励みになる
- ・モデル事業に関して、拙速に事業を進め、職員、設置校、施設環境などの準備期間等を調整できなかったのは反省すべきである
- ・この分教室システムが充実すればインクルーシブ教育として、教育上意義あるものと思う
- ・分教室の生徒、職員ともとても仲良くさせてもらっている。楽しく学校生活を送っており、今のところ問題はないと思います
- ・分教室生徒理解を促進するためにも障害に係る職員研修を数多く実施すべきである

#### (4) 調査の総合考察

##### ① 共生化の拡大

【目標】分教室に在籍する生徒と高校に在籍する生徒が共に学ぶ場所が共有されることで、同世代の生徒とのつながりをより強めることができるようになる。

【結果】「分教室の勉強は楽しいですか」の設問で各分教室生徒は、73.9～100%の数値で、「とても楽しい。楽しい」と回答している。「同世代の友とのつながりを強める学校生活となっているか」の設問で、各分教室保護者は、95.8～100%の数値で、「そう思う、まそう思う」と回答している。

【成果】このことから、分教室を設置したことで、共生化の拡大が図られたと考えられる。

【課題】設置校の生徒と分教室の生徒と関わりがまだ一部で、設置高校の半数以上の生徒が分教室の生徒と関わりがないと回答している。今後、さらに交流及び共同学習を推進する必要がある。

##### ② 理解啓発の推進

【目標】地域の生徒という意識が深まることにより、地域での理解や支援が受けやすく、障害に対する理解が進むようになる。

【結果】「分教室が設置されたことで、障害者に対する理解が進んだと思いますか」の設問で、分教室保護者の91.7～100%が「理解が進んだと思う」と回答している。

また、「高校内に分教室が設置されたことで、障害者に対する理解が進んだと思いますか」の設問に対し、設置高校保護者の86.2%～89.0%、設置高校職員の65.8～87.8%が理解が進んだと回答している。

さらに、「分教室が設置されたことで、障害者に対する意識が以前より変化しましたか」の設問では、設置高校生徒の49.1～57.2%が「変化した」と回答している。

【成果】アンケート結果から高校に分教室を設置したことにより、障害に対する理解がある程度進んでいると考えられる。

【課題】設置高校生徒の50%強が「障害者に対する意識の変化があった」となっていることは、分教室と関わったことで、意識の変化が見らる一方、これまで関わる機会がなかった生徒にとってはよく理解されていない状況もあるので、分教室との関わり方を工夫する必要があると思われる。

##### ③ 地域化の推進

【目標】分教室が設置されることで、通学の利便性が高まり、居住地により近い場所で学べるようになる。(現在、特別支援学校は障害種毎に設置され、知的障害特別支援学校は、全県を通学区域とする沖縄高等特別支援学校や、本島・離島の各地域を通学区域とする7校があり、いずれの学校も広範囲の通学区域を抱えている。)

【成果】分教室の生徒は、「軽度知的障害者で自主(自力)通学が可能な者」を対象としている。

離島の分教室設置校保護者より、分教室があるおかげで生活や経済的に助かったという意見があるなど、他地域においても通学の利便性のあること、居住地により近い分教室で学べるようになったことで分教室設置は地域化の意義があると考えられ、「新しい学びの場としての選択肢」に挙げて検討できるのではないかとと思われる。

【課題】設置高校保護者より、「分教室の現状がよくわからない」、「情報がPTA等に伝わっていない」、「中学生、教員及び保護者によく周知されていない」などの点が指摘されていることから、設置校保護者や地域に対して、分教室に関連する情報提供や広報活動に努めることが求められる。

##### ④ センターの機能の充実

【目標】分教室を設置することにより、設置高校や周辺地域にとって特別支援教育に関する相談・支援が身近なものとなり、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすとともに地域拠点の充実を図る。

【成果】分教室の特別支援教育コーディネーターが設置高校のコーディネーターを兼ねたり、地域小中学校の特別支援教育担当者会議に参加することに加え、特別支援教育に関する相談等に関わるなど、センター的機能の充実が図られつつある。「分教室

の職員のおかげで特別支援教育に係る校内研修が充実している。」との意見もあった。

また、設置高校職員に対して、「分教室が設置されたことが当該高校の特色となっているか」と問うたところ、65.8～100%が「思う、まあそう思う」と回答している。このことから、分教室は設置高校の特色として捉えられているものと考えられる。

【課題】設置高校の職員に対して、障害者についての研修を行えば、より理解が深まるという意見もあり、今後も障害者に関する校内研修の充実を図る必要がある。

⑤ 中学校（知的障害特別支援学級）卒業生のニーズへの対応

【目標】中学校（知的障害特別支援学級）卒業生の進路先の拡大が図れるようになる。

【成果】平成23年度の沖縄高等特別支援学校分教室は、居住地に近い分教室を志願する生徒が定員をオーバーしている（南風原分教室→22名、中部農林分教室→15名）。

また、沖縄高等特別支援学校本校志願者が定員45名に対し、分教室設置前、H20入試→58名、H21入試（分教室設置）→118名、H22入試→106名、H23入試→125名と分教室設置後、志願者数が増加しており、軽度知的障害のある生徒の進路選択の拡大に繋がっている。

【課題】久米島分教室は、平成26年度から3年間、志願者がいない状況が想定され、その期間の対応を休教室とするか検討を要する。

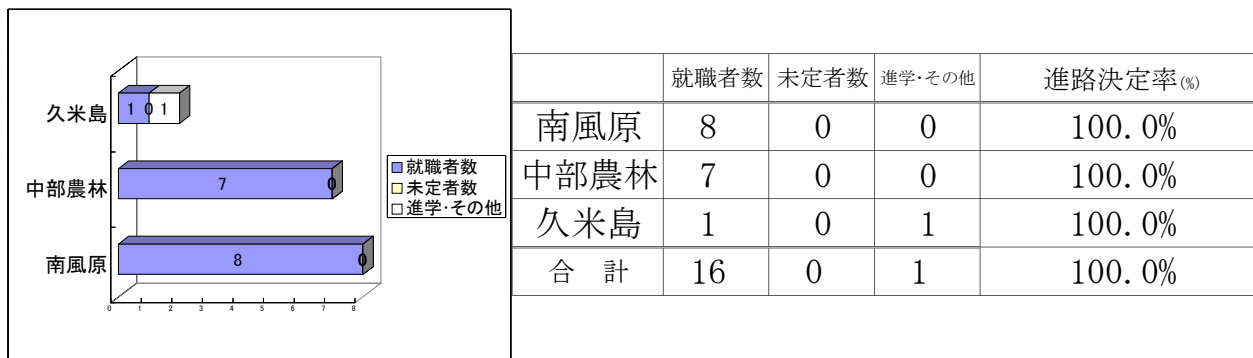
沖縄高等特別支援学校の志願者増に伴い、高校への分教室拡大について今後の協議が必要となる。

⑥ その他の課題（意見より）

- ・施設、設備の充実
- ・分教室を設置する際は、教育課程がしっかり履修できるように学習環境を整える必要がある。（作業室、備品、予算等）
- ・生徒数が少なくても、教育の保障のために、ある程度の職員配置が必要である。

## 5. 各分教室の進路状況 H25. 3. 25日現在

### 1. 平成25年3月現在の進路状況



#### 【進路先等】(内定者含む)

- ・久米島イブチホテル
- ・久米島紬事業協同組合研修生採用
- ・(株)サンエー
- ・ティイビス琉球苑
- ・タピック沖縄(ユインチホテル南城)
- ・沖縄偕成園
- ・(有)サエキ(マドナルド坂田店)
- ・(株)ジーマック
- ・那覇空港グランドサービス
- ・金秀商事株式会社
- ・(株)喜神サービス
- ・沖縄電気工業株式会社
- ・株式会社あやはし 海の駅あやはし館

#### 【考察】

- ・分教室、設置校職員の不断の努力による進路支援が行われ、進路決定率は100%であった。
- ・進路は就職を主とした生徒が大勢を占めていた。
- ・設置高校における進路指導支援も役立ったとの報告もあった。
- ・キャリア教育の一環であるインターンシップで採用のきっかけをつかんだ生徒もいた。
- ・部活動での活躍を認められ、(マスコミで取り上げられる)複数の企業から採用の打診を受けた生徒もいた。

## 6. 総合考察

各分教室の設置高等学校での交流及び共同学習の推進や特色ある分教室での授業の工夫により、本事業の目的に照らし合わせて、大きな成果を得ることができたものとする。

表5に平成25年1月時点の各分教室の生徒の在籍者数を示している。この3年間で56名の生徒が分教室に在籍し、今年度3月に17名卒業した。

表5 各分教室の3年間の在籍数

	学年	H22	H23	H24
南風原高等学校 分教室	1	9	8	10
	2		8	8
	3			8
	計	9	16	26
中部農林高等学校 分教室	1	8	10	8
	2		8	10
	3			7
	計	8	18	25
久米島高等学校 分教室	1	2	2	2
	2		2	1
	3			2
	計	2	4	5
合計		19	38	56

教育庁総務課が平成23年度に策定した、県立特別支援学校編成整備の基本方向(H24～H33)において、知的障害者の高等部在籍者数増加に対応する方策の1つとしている。今回の「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」は、平成24年度をもって区切りを迎えた。これまでの3年間の経緯をふまえて本事業を総括し、今後の県立特別支援学校高等部の分教室の在り方を模索する上でも、設置高等学校や分教室の生徒、保護者、教職員のアンケート調査の結果は、今後の分教室設置に向けた示唆を与えた結果であったと捉えた。

そこで、調査結果を基に、平成24年10月に「沖縄県立学校における特別支援学級、分校、分教室に係る検討委員会」において本事業における成果を確認し、南風原高等学校分教室、中部農林高等学校分教室、久米島高等学校分教室の設置継続を決定するに至った。

今後は、更に分教室の拡大や円滑な分教室運営、設置高等学校等の在り方等について課題を整理し、整備を進めていくことが確認された。

今回、本事業の評価のために、延べ2000人に上る調査対象者から感想、意見を集約し、その結果から、以下の5つの観点について、同世代の生徒とのつながりが強まったこと、障害者への理解が深まったこと、居住地に近い学校としての有効性、特別支援教育としての有効性、特別支援教育コーディネーターの活用、そしてその有効性及び貢献を示す回答が数多く挙げられた。



- (1) 共生化の拡大
- (2) 障害者理解啓発の推進
- (3) 地域化の推進
- (4) センターの機能の充実
- (5) 中学校（知的障害特別支援学級）卒業生のニーズへの対応

分教室設置継続の決定に附則として、久米島高等学校分教室については、久米島町内の小・中学校における分教室入学希望者等の調査を実施し、平成28年度以降の在籍を確認した上で、あらためて検討することとなった。

今後は、設置校等における施設・設備面の充実を始めとした教育環境の整備やソフト面の効果的な配慮が不可欠であり、同時に、分教室を運営する上で設置校の支援体制の推進や母体・設置両校管理者に係る業務内容についてさらに検討を図る必要があるものと考えられる。また、分教室生徒としての意識等で分教室間に若干の差が見られることから、今後も職員の創意工夫や効果的な授業づくりが必要とされる場所である。

総じて、課題は決して少なくはないが、本事業を進めてきた中で、所期の目標としてのインクルーシブ教育システムの構築に向けた教育の展開、普及が図られ、次世代の共生社会構築へ向けて確かな一歩を踏み出したものと捉えている。

## 7. 南風原高等学校分教室、中部農林高等学校分教室、久米島高等学校分教室の継続的設置について（「沖縄県立学校における特別支援学級、分校、分教室に係る検討委員会」審議結果）

事業にかかわる「研究実施にかかる生徒、保護者、教職員のアンケート調査」の結果を受けて、平成24年10月5日に「沖縄県立学校における特別支援学級、分校、分教室等に係る検討委員会（委員長：浜口茂樹教育指導統括監）」が開催され、以下のとおり審議結果が同日付で県教育長へ報告された。

### (1) 報告内容

当委員会は、県立沖縄高等特別支援学校の中部農林高等学校分教室、南風原高等学校分教室の継続設置及び県立大平特別支援学校の久米島高等学校分教室の継続設置について検討した。

検討にあたっては、平成22年度から取り組んでいる「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」（以下「モデル校事業」という。）の最終報告から得られた成果を参考にした。

討議の結果をふまえて、以下のとおり報告する。

#### 第1 報告の趣旨

- 1 県立沖縄高等特別支援学校の中部農林高等学校分教室及び南風原高等学校分教室、並びに県立大平特別支援学校の久米島高等学校分教室を平成25年度以降、モデル校事業の継続ではなく、正式に分教室として位置づけ設置することとする。
- 2 なお、県立大平特別支援学校の久米島高等学校分教室について、久米島町内の小学校、中学校における分教室入学希望者等の調査を図った上で、平成28年度以降については、その動静を確認し、改めて検討することとする。

#### 第2 報告の理由

- 1 モデル校事業最終報告では、分教室及び設置高校の生徒、保護者及び教職員を対象に意識調査が実施され、その中で、①共生化の拡大、②理解啓発の推進、③地域化の推進、④センター的機能の充実、⑤中学校(知的障害特別支援学級)卒業生のニーズへの対応など5つの観点で成果が整理されていた。

##### (1) 共生化の拡大

モデル校事業における調査の主な回答として、分教室生徒は73.9%において「分教室の勉強は楽しい」と回答しており、分教室保護者も「同世代の友とのつながりを強める学校生活」となっている」と回答している(95.8%)。これらにより、共生化の拡大が図られたものと判断された。

##### (2) 理解啓発の推進

分教室保護者の91.7～100%が「分教室が設置されたことで、障害者に対する理解が進んだ」と回答していた。また、設置高校保護者及び設置高校教職員においても「高校内に分教室が設置されたことで、障害者に対する理解が進んだ」と認識していることがわかった(設置高校保護者：89.0%)、設置高校職員：87.8%)。

さらに、設置高校生徒においても「分教室が設置されたことで、障害者に対する意識が以前より変化した」と57.2%が回答している。これらにより、理解啓発の推進が図られつつあると判断された。

##### (3) 地域化の推進

分教室が設置されることで、分教室生徒の通学の利便性が高まり、居住地により近い場所で学べることが強く求められていた。久米島高校分教室においては、離島という環境の中で、沖縄本島への特別支援学校就学にかかる経済的、精神的負担の軽減が求められていた。久米

島高校分教室保護者からは、「分教室があるおかげで生活や経済的に助かった。」という意見も挙がっていた。居住地により近い分教室設置に伴う地域化の推進は、その目的を達成できたものと判断された。

#### (4) センターの機能の充実

南風原高校分教室では、分教室の特別支援教育コーディネーターが設置高校のコーディネーターを兼ね、地域小中学校の特別支援教育担当者会議に参加することに加え、特別支援教育に関する相談等に関わるなど、センター的機能の充実を図った実績があった。加えて「分教室の職員のおかげで特別支援教育に係る校内研修が充実している。」との意見もあった。

また、設置高校職員の多くが「分教室が設置されたことが当該高校の特色となっている」と回答していた。このことにより、分教室は設置高校の特色として捉えられ、センター的機能が果たされているものと判断された。

#### (5) 中学校（知的障害特別支援学級）卒業生のニーズへの対応

平成 23 年度の沖縄高等特別支援学校の各分教室志願者は、その定員数を上回っていた（南風原分教室：22 名／10 名定員、中部農林分教室：15 名／10 名定員）。併せて、沖縄高等特別支援学校本校においても定員 45 名に対し、分教室設置前よりも志願者数が増加している現状（H20 入試：58 名、H21 入試（分教室設置）：118 名、H22 入試：106 名、H23 入試：125 名）があり、分教室設置による中学校卒業生のニーズに対応したものと判断された。

- 平成 24 年度の久米島高等学校分教室在籍生徒数は、6 名である。平成 25 年度入学希望者については、調査の結果から久米島町内中学校から 1 名いることがわかっているが、平成 26 年度以降については、中学校特別支援学級において生徒が在籍していないことが判明した。

そこで、平成 25 年度については、久米島高等学校分教室において定員を策定し、入学者を受け入れることが求められ、在籍生徒が卒業するまでの間は、分教室の継続設置が必要だが、平成 28 年度以降について、久米島町内の入学希望生徒の動静を調査した上で、あらためて検討することが求められている。

今後は、県立特別支援学校編成整備計画と連動させながら、久米島高等学校分教室の設置については、継続して検討することを確認した。

上記の報告を受け、平成 24 年 11 月 22 日付け教県第 21222 号において、県立沖縄高等特別支援学校長、県立南風原高等学校長、県立中部農林高等学校長あてに県立高等特別支援学校分教室の継続設置について通知し、平成 24 年 11 月 26 日付け教県第 21242 号において、県立久米島高等学校長あて、県立大平特別支援学校分教室の継続設置について通知されている。

## おわりに

県教育委員会は、「沖縄県立特別支援学校高等部分教室の調査研究モデル校事業」として、「共生化の拡大」、「理解啓発の推進」、「地域化の推進」、「センター的機能の充実」、「中学校（知的障害特別支援学級）卒業生への対応」の検証のため、県立特別支援学校高等部の分教室を県立高等学校内に設置し、その具現化を図る取組を進めてきました。

平成22年4月から平成25年3月までの3年間に要して、県立沖縄高等特別支援学校の分教室を県立南風原高等学校と中部農林高等学校に設置すると共に、併せて、県立大平特別支援学校の分教室を県立久米島高等学校に設置し、モデル事業展開を図ってきました。

この3年間の取組をとおして、3校の分教室では、設置高等学校での授業、行事、部活動等で設置高等学校の生徒と交流及び共同学習に取り組んできました。その中で、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進や、障害のある者と障害のない者が触れ合い、交流していくという機会が増え、共生社会の形成に向けた望ましい経験へとつながりました。また、設置高等学校の生徒、保護者、教職員への障害者理解を推進することになり、そのことは、障害のある生徒が積極的に社会に参加・貢献するための環境整備の一つとなっています。また、分教室という「多様な学びの場」を設けることは、生徒のニーズに応じる教育の観点からみて、大きな意義があると考えます。

さらに、設置校内における分教室の生徒と高校の生徒との日常的な交流は、両校の生徒の人間的な成長に大きく寄与するものと確信しております。また、社会自立を目指していくなかで、分教室全ての生徒が進路決定率100%を達成し、高い一般就労率を挙げることができたことは何よりの成果だと捉えています。

今度も「共生化の拡大」、「理解啓発の推進」、「地域化の推進」、「センター的機能の充実」、「中学校（知的障害特別支援学級）卒業生への対応」に関する取組の充実を図る上で今回の事業の成果は大きな示唆を与えるものであります。

県教育委員会では、今後とも母体特別支援学校や設置高等学校と連携し、分教室の課題解決に向けた取組を推進していく所存であります。